

【表紙】

| | |
|----------------------------------|---|
| 【提出書類】 | 有価証券届出書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 殿 |
| 【提出日】 | 2023年4月3日提出 |
| 【発行者名】 | 大和アセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 小松 幹太 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 西脇 保宏 連絡場所 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 |
| 【電話番号】 | 03-5555-3431 |
| 【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 | ダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN） 2023年4月4日付けで、ファンドの名称を「iFreeETF MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」に変更します。 |
| 【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 | 5兆円を上限とします。 |
| 【縦覧に供する場所】 | 名 称 株式会社東京証券取引所 所在地 東京都中央区日本橋兜町2番1号 |

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

iFreeETF MSCI日本株女性活躍指数（WIN）

2023年4月4日付けで、ファンドの名称を「ダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」から「iFreeETF MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」に変更します。

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託（契約型）の受益権です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付もありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

5兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

100口当たり取得申込受付日の基準価額とします。

基準価額は、販売会社または下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(5)【申込手数料】

販売会社は、当該販売会社が定める申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を取得申込者から徴収することができるものとします。当該申込手数料は、当該販売会社および受託会社が収受するものとします。

販売会社については、下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(6)【申込単位】

委託会社は、取得申込みに適用される各銘柄の株式（以下「取得時のバスケット」といいます。）を所定の方法（ 1 ）によって提示するものとします。

受益権の取得申込者は、販売会社（ 2 ）に対し、取得時のバスケットを単位として受益権の取得申込みを行なうことができます。

取得時のバスケットは、日々変更されます。

原則として、所定の方法に定められる金銭の支払い以外に、金銭によって受益権の取得申込みを行なうことはできません。

（ 1 ）所定の方法

1. 委託会社は、取得申込受付日の3営業日前までに、取得申込受付日に適用される「取得時のバスケット」を定めます。委託会社は、原則として、取得時のバスケットを、取得申込可能日の毎日、インターネット・サイト「<https://www.daiwa-am.co.jp/etf/>」に掲示します。
2. 「取得時のバスケット」1単位当たりの取得口数は、取得時のバスケットの評価額を取得申込受付日の基準価額で除して得た口数をもとに、委託会社が定めるものとします。
3. 取得時のバスケットの評価額が、委託会社が定める口数に取得申込受付日の基準価額を乗じて得た額に満たない場合には、取得申込者はその差額に相当する金銭を支払うものとします。
4. 取得時のバスケットに取得申込者の自社株式等（自社が発行した株式またはその親会社（会社法第2条第1項第4号に規定する親会社をいいます。）が発行した株式をいいます。以下同じ。）が含まれている場合には、当該株式に代えて、当該株式の評価額に、これを信託財産において取得するため必要な経費に相当するものとして当該評価額に別に定める率を乗じて得た額を加算した金額の金銭を引渡すことによって、取得の申込みに応じることができるものとします。

取得申込者は、販売会社を通じて、委託会社に取得時のバスケットに自社株式等が含まれている旨を通知するものとします。この通知が取得申込時に行なわれなかった場合において、そのことによって取得申込者または信託財産その他に損害が生じた場合には、当該取得申込者がすべての責を負うものとします。

（ 2 ）販売会社

販売会社については、下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(7) 【申込期間】

2023年4月4日から2023年10月3日まで（継続申込期間）

（終了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。）

(8) 【申込取扱場所】

下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(9) 【払込期日】

受益権の取得申込者は、取得申込みにかかる取得時のバスケットの各銘柄の株式および金銭を、当該取得申込みにかかる信託が設定される日までに販売会社に引渡し、当該取得時のバスケットの各銘柄の株式を保護預けするものとします。取得申込みにかかる株式については、販売会社によって、追加信託

が行なわれる日に、受託会社の指定するファンド口座に移管されます（株式等に金銭が含まれる場合は、当該金銭については、販売会社によって、追加信託が行なわれる日に、委託会社の口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払込まれます。）。

(10)【払込取扱場所】

前(9)の引渡しは、販売会社において行なうものとし、販売会社については、前(6)をご参照下さい。

(11)【振替機関に関する事項】

振替機関は下記のとおりです。

株式会社 証券保管振替機構

(12)【その他】

該当事項はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を「MSCI日本株女性活躍指数」（以下「対象株価指数」という場合があります。）の変動率に一致させることを目的とします。

一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は、次のとおりです。

商品分類表

| 単位型投信・追加型投信 | 投資対象地域 | 投資対象資産(収益の源泉) | 独立区分 | 補足分類 |
|-------------|--------|-------------------------------|------|---------|
| 単位型投信 | 国内 | 株式 | MMF | インデックス型 |
| | 海外 | 債券 | MRF | |
| 追加型投信 | 内外 | 不動産投信 その他資産 () 資産複合 | ETF | 特殊型 |

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 対象インデックス |
|----------------|--------------|-------------|--------------------------------|
| 株式 | | グローバル | |
| 一般 | 年1回 | 日本 | 日経225 |
| 大型株 | | | |
| 中小型株 | 年2回 | 北米 | |
| 債券 | | 欧州 | |
| 一般 | 年4回 | アジア | TOPIX |
| 公債 | 年6回 (隔月) | オセアニア | |
| 社債 | | 中南米 | |
| その他債券 | 年12回 (毎月) | アフリカ | その他 (MSCI 日本株女性 活躍指数) |
| クレジット属性 () | | 中近東 (中東) | |
| 不動産投信 | 日々 | エマージング | |
| その他資産 () | | | |
| 資産複合 () | その他 () | | |
| 資産配分固定型 | | | |
| 資産配分変更型 | | | |

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

(注1) 商品分類の定義

| | | |
|---------|-----|--|
| 単位型・追加型 | 単位型 | 当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行なわれないファンド |
| | 追加型 | 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンド |

| | | |
|------------|-----------------------|--|
| 投資対象 地域 | 国内 | 目論見書または投資信託約款(以下「目論見書等」といいます。)において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 海外 | 目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 内外 | 目論見書等において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの |
| 投資対象 資産 | 株式 | 目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 債券 | 目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 不動産投信(リート) | 目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるもの |
| | その他資産 | 目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券、不動産投信(リート)以外の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 資産複合 | 目論見書等において、株式、債券、不動産投信(リート)およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの |
| 独立区分 | MMF(マネー・マネージメント・ファンド) | 「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMF |
| | MRF(マネー・リザーブ・ファンド) | 「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRF |
| | ETF | 投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託 |
| 補足分類 | インデックス型 | 目論見書等において、各種指数に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの |
| | 特殊型 | 目論見書等において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるもの |

(注2) 属性区分の定義

| | | | |
|------------|---------------------|--|---|
| 投資対象 資産 | 株式 | 一般 | 大型株、中小型株属性にあてはまらないすべてのもの |
| | | 大型株 | 目論見書等において、主として大型株に投資する旨の記載があるもの |
| | | 中小型株 | 目論見書等において、主として中小型株に投資する旨の記載があるもの |
| | 債券 | 一般 | 公債、社債、その他債券属性にあてはまらないすべてのもの |
| | | 公債 | 目論見書等において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。）に主として投資する旨の記載があるもの |
| | | 社債 | 目論見書等において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるもの |
| | | その他債券 | 目論見書等において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるもの |
| | | 格付等クレジットによる属性 | 目論見書等において、特にクレジットに対して明確な記載があるもの |
| | 不動産投信 | 目論見書等において、主として不動産投信（リート）に投資する旨の記載があるもの | |
| | その他資産 | 目論見書等において、主として株式、債券、不動産投信（リート）以外に投資する旨の記載があるもの | |
| | 資産複合 | 目論見書等において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるもの | |
| | 資産複合 資産配 分固定型 | 目論見書等において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるもの | |
| | 資産複合 資産配 分変更型 | 目論見書等において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないもの | |
| 決算頻度 | 年1回 | 目論見書等において、年1回決算する旨の記載があるもの | |
| | 年2回 | 目論見書等において、年2回決算する旨の記載があるもの | |
| | 年4回 | 目論見書等において、年4回決算する旨の記載があるもの | |
| | 年6回（隔月） | 目論見書等において、年6回決算する旨の記載があるもの | |
| | 年12回（毎月） | 目論見書等において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるもの | |
| | 日々 | 目論見書等において、日々決算する旨の記載があるもの | |
| | その他 | 上記属性にあてはまらないすべてのもの | |

| | | |
|----------|---------------------|---|
| 投資対象地域 | グローバル | 目論見書等において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 日本 | 目論見書等において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 北米 | 目論見書等において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 欧州 | 目論見書等において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | アジア | 目論見書等において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | オセアニア | 目論見書等において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 中南米 | 目論見書等において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | アフリカ | 目論見書等において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | 中近東（中東） | 目論見書等において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| | エマージング | 目論見書等において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるもの |
| 投資形態 | ファミリーファンド | 目論見書等において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するもの |
| | ファンド・オブ・ファンズ | 「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズ |
| 為替ヘッジ | あり | 目論見書等において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行なう旨の記載があるもの |
| | なし | 目論見書等において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行なう旨の記載がないもの |
| 対象インデックス | 日経225 | 目論見書等において、日経225に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの |
| | TOPIX | 目論見書等において、TOPIXに連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの |
| | その他の指数 | 目論見書等において、上記以外の指数に連動する運用成果をめざす旨の記載があるもの |
| 特殊型 | ブル・ベア型 | 目論見書等において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行なうとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）をめざす旨の記載があるもの |
| | 条件付運用型 | 目論見書等において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるもの |
| | ロング・ショート型 / 絶対収益追求型 | 目論見書等において、ロング・ショート戦略により収益の追求をめざす旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求をめざす旨の記載があるもの |
| | その他型 | 目論見書等において、特殊型のうち上記に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるもの |

商品分類・属性区分の定義について、くわしくは、一般社団法人投資信託協会のホームページ(アドレス<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照下さい。

< 信託の限度 >

- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、1兆円に相当する株券および金銭を限度として追加信託することができます。
- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、上記の限度を変更することができます。

< ファンドの特色 >

1

信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を「MSCI日本株女性活躍指数」の変動率に一致させることを目的として、「MSCI日本株女性活躍指数」に採用されている銘柄(採用予定を含みます。)の株式に投資します。

- 上記に沿うよう、信託財産の構成を調整するための指図を行なうこと(株価指数先物取引等を利用することを含みます。)があります。
- 市況動向、資産規模等によっては、上記の運用が行なえないことがあります。

「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」について

- ◆MSCI日本株女性活躍指数は、MSCI Inc.により選定された職場における高い性別多様性を推進する日本企業で構成される株価指数です。Women's Indexの略から「WIN」という愛称がついています。
- ◆J-REITを除く各業種から、女性活躍推進法により開示される性別多様性に関するデータと企業の開示情報に基づいてMSCI Inc.が算出する性別多様性スコアの高い上位半数の企業を選定します。なお、非常に深刻な不祥事や人権・労働者権利に関する不祥事が発生している企業は除外されます。
- ◆構成銘柄の比率は、性別多様性スコア、ROEの水準や収益の安定性から算出されるクオリティ・スコアおよび時価総額により決定します。
- ◆原則として、5月末と11月末の年2回、指数構成銘柄および構成比率の見直しを行いません。

※「MSCI日本株女性活躍指数」を以下「対象株価指数」という場合があります。

当ファンドは、「ESGファンド*」です。

*当ファンドは、経済的リターンと並行して社会や環境にポジティブなインパクトをもたらす、いわゆる「社会的リターン」の獲得をめざすものではありません。

※ESGファンドに関する規制や、ESG投資を取り巻く情勢等に応じて、当社のESGファンドの定義や対象ファンドについては、今後見直す場合があります。

2 当ファンドは、通常の証券投資信託とは異なる仕組みを有しています。

- 受益権は、東京証券取引所に上場され、株式と同様に売買することができます。
 - 売買単位は、10口単位です。
 - 取引方法は、原則として株式と同様です。
- 追加設定は、株式により行ないます。
 - 追加設定にかかる受益権の取得申込者は、取得時のバスケット（「MSCI日本株女性活躍指数」を構成する各銘柄の株式の数の構成比率に相当する比率により構成される各銘柄の株式として委託会社が指定するもの）を単位として、受益権を取得しなければならないものとしします。
 - 原則として、所定の方法に定められる金銭の支払い以外に、金銭によって受益権の取得申込を行なうことはできません。
- 受益権を株式と交換することができます。
 - 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、当該受益権と当該受益権の信託財産に対する持分に相当する株式との交換を申込みすることができます。
 - 解約申込により受益権を換金することはできません。
- 収益分配金は、名義登録受益者に対して支払われます。
 - 名義登録受益者とは、計算期間終了日において氏名または名称、住所および個人番号または法人番号（個人番号もしくは法人番号を有しない者または収益の分配につき租税特別措置法第9条の3の2第1項に規定する支払の取扱者を通じて交付を受ける者にあつては、氏名または名称および住所）が受託会社に登録されている者をいいます。

3 収益の分配は、計算期間ごとに、信託財産について生じる配当、受取利息その他これらに類する収益の額の合計額から支払利子、運用管理費用（信託報酬）その他これらに類する費用の額の合計額を控除した額の全額について行ないます。決算日は毎年1月10日および7月10日です。

(注) 第1計算期間は、2018年1月10日までとします。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

主な投資制限

- 株式という資産全体の投資割合には、制限を設けません。
- 外貨建資産への投資は、行ないません。

● 指数の著作権等について

本ファンドは、MSCI Inc. (「MSCI」)、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者によって保証、推奨、販売、または宣伝されるものではありません。MSCI指数は、MSCIが独占的に所有しています。MSCI及びMSCI指数は、MSCI及びその関係会社のサービスマークであり、大和アセットマネジメント株式会社は特定の目的の為にその使用を許諾されています。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、本ファンドの所有者または不特定多数の公衆に対して、ファンド全般またはこの特定のファンドへの投資に関する当否あるいは一般的な株式市場のパフォーマンスを追従しているMSCI指数の能力に関して、明示的であるか黙示的であるかを問わず、一切の表明または保証を行いません。MSCIとその関連会社は、特定のトレードマーク、サービスマーク、トレードネームのライセンスの所有者であり、MSCI指数は、本ファンドまたは本ファンドの発行会社あるいは所有者に関わらず、MSCIにより決定、作成、及び計算されています。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、MSCI指数の決定、作成、あるいは計算において、本ファンドの発行者または所有者の要求を考慮にいれる義務は一切ありません。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、本ファンドの発行時期、発行価格または発行数量の決定について、また、本ファンドを現金に償還する方程式の決定または計算について責任を負うものではなく、参加もしていません。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、本ファンドの所有者に対し、本ファンドの管理、マーケティングまたは募集に関連するいかなる義務または責任も負いません。

MSCIは、自らが信頼できると考える情報源から本件指数の計算に算入される情報またはその計算に使用するための情報を入手しますが、MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、本件指数またはそれに含まれるいかなるデータの独創性、正確性及び/または完全性について保証するものではありません。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、明示的にも黙示的にも、被許諾者、その顧客または相手方、本ファンドの発行会社、本件ファンドの所有者その他の個人・法人が、本契約にもとづき許諾される権利またはその他使用のために許諾される権利に関連して本件指数またはそれに含まれるデータを使用することにより得られる結果について保証を行うものではありません。MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、本件指数及びそれに含まれるデータの、またはそれに関連する過誤、省略または中断に対してまたはそれらに関して責任を負うことはありません。本件指数及びそれに含まれるデータに関し、MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、明示的、黙示的な保証を行うものでもなく、かつMSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、特定目的のための市場性または適切性について、何ら保証を行うものではないことを明記します。前記事項を制限することなく、たとえ直接的損害、間接的損害、特別損害、懲罰的損害、拡大的損害その他のあらゆる損害（逸失利益を含む。）につき、その可能性について知らせを受けていたとしても、MSCI、その関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、いかなる場合においてもかかる損害について責任を負いません。

本証券の購入者、販売者、または所有者あるいはいかなる個人・法人は、MSCIの許諾が必要かどうかの決定をあらかじめMSCIに問い合わせることなく、本証券を保証、推奨、売買、又は宣伝するためにいかなるMSCIのトレードネーム、トレードマーク、又はサービスマークを使用または言及することはできません。いかなる場合においても、いかなる個人または法人は、事前にMSCIの書面による許諾を得ることなくMSCIとの関係を一切主張することはできません。

●「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」をベンチマークとして選定した理由

- 当指数は、社会に対する、各企業の負荷やガバナンス体制を考慮したESG指数であること。
- 当指数の構成銘柄を決定するメソドロジーは、MSCI Inc.から公表されており、内容についても定量的なデータをもとに決定されていることから、十分な透明性があること。また、決定方法においても、ESG格付けが一定以上の銘柄のみで構成するというポジティブスクリーニングを行なっていること。
- MSCI Inc.のESG格付けの前提となる主要課題フレームワークには、当社がESG重要課題と定めている事項が多く含まれており、選定基準として適切であると判断したこと。さらに、主要課題を画一的でなく世界産業分類基準（GICS）の産業サブグループ毎に定めており、実効性が高いこと。

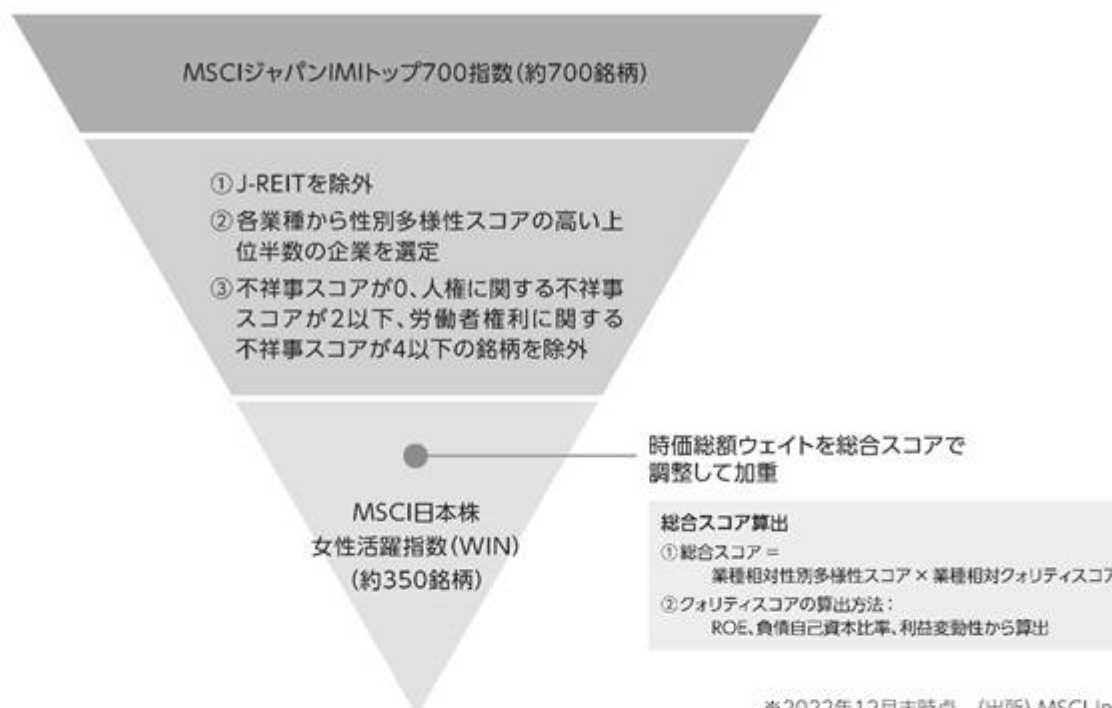
| 3つの柱 | 10のテーマ | 35の主要課題フレームワーク |
|-----------|----------------|--|
| 環境 (E) | 地球温暖化 | 炭素排出量、気候変動への脆弱性、資金調達への影響、製品カーボンフットプリント |
| | 自然資源 | 水資源枯渇、生物多様性と土地利用、責任ある原材料調達（環境） |
| | 廃棄物管理 | 有害材料と廃棄物管理、包装材廃棄物、電子機器廃棄物 |
| | 環境市場機会 | クリーンテクノロジー、グリーンビルディング、再生可能エネルギー |
| 社会 (S) | 人的資源 | 労働安全衛生、人的資源開発、労働マネジメント、サプライチェーンと労働管理 |
| | 製品サービスの安全 | 製品化学物質、安全な金融商品、人口動態保険リスク、プライバシー&データセキュリティ、製品安全・品質、責任ある投資 |
| | ステークホルダーマネジメント | 地域社会との関わり、問題のある調達先 |
| | 社会市場機会 | コミュニケーションへのアクセス、金融へのアクセス、ヘルスケアへのアクセス、健康市場機会 |
| ガバナンス (G) | コーポレートガバナンス | 取締役会構成、報酬、オーナーシップと支配、会計リスク |
| | 企業行動 | 企業倫理、税務の透明性 |

※2022年12月末時点（出所）MSCI Inc.

●ESG指数の提供会社としてMSCI Inc.を採用した理由

- MSCI Inc.のESGリサーチ部門は、世界中にアナリスト・リサーチャーを抱える手厚い体制が整っており、数多くの企業の評価を行なっていること。
- ESGデータのガバナンスにおいても、利益相反を避けるために企業が格付けやその他のMSCI ESG評価を向上させる方法について、助言やコンサルティングを行なわないこと。一方、市場の透明性の観点から、公開情報のみを使用して評価していること。また、企業からのフィードバックを受け付けていること。
- MSCI Inc.は、長期にわたるインデックスの提供を始めたデータやリサーチ結果を提供している会社であり、株式を中心として数多くのファンド、ETFにインデックスが採用されており、一定の評価があること。
- MSCI Inc.は長期にわたり安定した経営基盤があり、指数算出の継続性に問題が無いと想定されること。

●「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の算出概要



※2022年12月末時点（出所）MSCI Inc.

(ご参考) MSCIの性別多様性スコア

| 多様性テーマ | 指 標 | ル ー ル |
|--------------------------|--------------------------------|--|
| ATTRACTION | 1. 新規採用者に占める女性比率% | 各指標は0-10の間でスコアされる。 |
| | 2. 従業員に占める女性比率% | |
| RETENTION | 3. 男性と女性の平均雇用年数の違い | |
| PROMOTION | 4. 管理職における女性比率% | |
| | 5. 取締役会における女性比率% | |
| 多様性パフォーマンス中間スコア | | 上述の5スコアの平均点 |
| DISCLOSURE | ディスクロージャーに応じた割引： 上述5指標の開示比率 | 開示比率(%)が割引点数に以下の通り変換され「多様性パフォーマンス中間スコア」の割引が決定 <ul style="list-style-type: none"> 20% (1/5の開示のみ) : -20%割引 40% (2/5の開示) : -15%割引 60% (3/5の開示) : -10%割引 80% (4/5の開示) : -5%割引 100% (5/5の開示) : 割引なし |
| 多様性パフォーマンス・スコア (75%ウェイト) | | 多様性パフォーマンス中間スコア + ディスクロージャー割引 |
| POLICY & PROGRAMS | 1. 多様性に関するポリシーと経営者の監督 | <ul style="list-style-type: none"> 反差別/多様性や労働ポリシーにおける内包 (inclusion) 従業員満足度を定期的にモニター |
| | 2. 多様性を改善する取組み | <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生やワーク・ライフ・バランス 外部認証 |
| 多様性実践スコア (25%ウェイト) | | 上記2スコアの平均 |
| 性別多様性スコア | | “多様性パフォーマンス・スコア”と“多様性実践スコア”の加重平均 |

(出所) MSCI Inc.

●基準価額の動きに関する留意点

当ファンドは、信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を「MSCI日本株女性活躍指数」の変動率に一致させることを目的として運用を行ないます。ただし、主として次の理由から、基準価額の動きが指数と完全に一致するものではありません。

- (a) 指数の構成銘柄のすべてを指数の算出方法どおりに組入れない場合があること
- (b) 運用管理費用（信託報酬）、売買委託手数料等の費用負担
- (c) 株式売買時の約定価格と基準価額の算出に使用する株価の不一致
- (d) 指数の算出に使用する株価と基準価額の算出に使用する株価の不一致
- (e) 株価指数先物取引と指数の動きの不一致（株価指数先物取引を利用した場合）
- (f) 指数の構成銘柄の入替えおよび指数の算出方法の変更による影響
- (g) 追加設定時、および組入銘柄の配当金や権利処理等によって信託財産に現金が発生すること

※2023年1月末現在、MSCI日本株女性活躍指数の先物取引は導入されておりません。同指数以外の指数先物取引を利用することがあります。

(2)【ファンドの沿革】

| | |
|------------|---|
| 2017年9月25日 | 信託契約締結、当初設定、運用開始 |
| 2017年9月26日 | 受益権を東京証券取引所に上場 |
| 2023年4月4日 | ファンドの名称を「iFreeETF MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」に変更（従来は「ダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」） |

(3)【ファンドの仕組み】

| | 名 称 | 関係業務の内容 |
|------|--|---|
| 委託会社 | 大和アセットマネジメント株式会社 | 当ファンドにかかる証券投資信託契約（以下「信託契約」といいます。）（ 1 ）の委託者であり、受益権の募集・発行、信託財産の運用指図、受益権とその信託財産に属する株式との交換の指図、信託財産の計算等を行ないます。 |
| 受託会社 | みずほ信託銀行株式会社 （再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行） | 信託契約（ 1 ）の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行ないます。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することができます。 |
| 取扱窓口 | 販売会社 | 受益権の募集、交換の取扱い等に関する委託会社および受託会社との三者間契約（ 2 ）に基づき、受益権の募集の取扱い、受益権とその信託財産に属する株式との交換に関する事務等を行ないます。 |

1：「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて、あらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容に基づき締結されます。証券投資信託の運営に関する事項（運用方針、委託会社および受託会社の業務、受益者の権利、信託報酬、信託期間等）が規定されています。

2：受益権の募集の取扱い、受益権とその信託財産に属する株式との交換に関する事務の内容等が規定されています。

委託会社および受託会社は、それぞれの業務に対する報酬を信託財産から收受します。

< 委託会社の概況（2023年1月末日現在） >

・ 資本金の額 151億7,427万2,500円

・ 沿革

- 1959年12月12日 大和証券投資信託委託株式会社として設立
- 1960年 2月17日 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得
- 1960年 4月 1日 営業開始
- 1985年11月 8日 投資助言・情報提供業務に関する兼業承認を受ける。
- 1995年 5月31日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づき投資顧問業の登録を受ける。
- 1995年 9月14日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。
- 2007年 9月30日 「金融商品取引法」の施行に伴い、同法第29条の登録を受けたものとみなされる。
(金融商品取引業者登録番号：関東財務局長(金商)第352号)
- 2020年 4月 1日 大和アセットマネジメント株式会社に商号変更

・ 大株主の状況

| 名 称 | 住 所 | 所有 株式数 | 比率 |
|----------------|-------------------|----------------|-------------|
| 株式会社大和証券グループ本社 | 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 | 株 2,608,525 | % 100.00 |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

委託会社は、信託財産の運用にあたっては、次の基本方針にしたがって、その指図を行いません。

当ファンドは、信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を対象株価指数の変動率に一致させることを目的として、対象株価指数に採用されている銘柄(採用予定を含みます。)の株式に対する投資として運用を行いません。

前 の基本方針に沿うよう、信託財産の構成を調整するための指図を行なうこと(株価指数先物取引等を利用することを含みます。)があります。

市況動向、資産規模等によっては、上記の運用が行なえないことがあります。

指数の変動をその基準価額の変動に適正に反映するための手法については、<ファンドの特色>をご参照下さい。

(2)【投資対象】

当ファンドにおいて投資の対象とする資産(本邦通貨表示のものに限ります。)の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条に掲げるものをいいます。以下同じ。)

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、後掲(5)に定めるものに限ります。)

ハ. 約束手形

ニ. 金銭債権のうち、投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第22条第1項第6号に掲げるもの

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

委託会社は、信託財産を、主として株式に投資することを指図します。

前 の規定にかかわらず、当ファンドの設定、交換、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託財産を、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

指数の変動をその基準価額の変動に適正に反映するための手法については、<ファンドの特色>をご参照下さい。

(3)【運用体制】

運用体制

ファンドの運用体制は、以下のとおりとなっています。



運用方針の決定にかかる過程

運用方針は次の過程を経て決定しております。

イ．基本計画書の策定

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を商品担当役員の決裁により決定します。

ロ．基本的な運用方針の決定

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ハ．運用計画書の作成・承認

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

職務権限

ファンド運用の意思決定機能を担う運用本部において、各職位の主たる職務権限は、社内規則によって、次のように定められています。

イ．CIO (Chief Investment Officer) (1名)

運用最高責任者として、次の職務を遂行します。

- ・基本的な運用方針の決定
- ・その他ファンドの運用に関する重要事項の決定

ロ．Deputy-CIO (0～5名程度)

CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ハ．インベストメント・オフィサー (0～5名程度)

CIOおよびDeputy-CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ニ．運用部長（各運用部に1名）

ファンドマネージャーが策定する運用計画を決定します。

ホ．運用チームリーダー

ファンドの基本的な運用方針を策定します。

ヘ．ファンドマネージャー

ファンドの運用計画を策定して、これに沿ってポートフォリオを構築します。

リスクマネジメント会議、FD諮問委員会および資産運用高度化委員会

次のとおり各会議体等において必要な報告・審議等を行なっています。これら会議体等の事務局となる部署の人員は35～45名程度です。

イ．リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ロ．FD諮問委員会

取締役会の諮問委員会として、ファンド組成・運用に関わる会議体等に対する牽制に資する事項について、取締役会に意見を述べます。

ハ．資産運用高度化委員会

資産運用高度化への取組みについて報告・検討し、必要事項を審議・決定します。

受託会社に対する管理体制

受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行なっています。また、受託会社より内部統制の整備および運用状況の報告書を受け取っています。

上記の運用体制は2023年1月末日現在のものであり、変更となる場合があります。

(4)【分配方針】

収益の分配は、計算期間ごとに、信託財産について生じる配当、受取利息その他これらに類する収益の額の合計額から支払利子、信託報酬その他これらに類する費用の額の合計額を控除した額の全額について行ないます。

(5)【投資制限】

株式（信託約款）

株式への投資割合には、制限を設けません。

投資する株式の範囲（信託約款）

イ．委託会社が投資することを指図する株式は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当により取得する株式については、この限りではありません。

ロ．前イ．にかかわらず、上場予定の株式で目論見書等において上場されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

先物取引等（信託約款）

委託会社は、わが国の金融商品取引所における有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8

項第3号八に掲げるものをいいます。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。

デリバティブ取引等(信託約款)

委託会社は、デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

株式の貸付け(信託約款)

イ. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式を次の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

ロ. 前イ. に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は、すみやかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

ハ. 委託会社は、株式の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

外貨建資産(信託約款)

外貨建資産への投資は、行ないません。

信用リスク集中回避(信託約款)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

3【投資リスク】

(1) 価額変動リスク

当ファンドは、株式など値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金とは異なります。

投資者のみなさまにおかれましては、当ファンドの内容・リスクを十分ご理解のうえお申込み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

基準価額の主な変動要因については、次のとおりです。

株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります(発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。)。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

その他

イ．ファンド資産をコール・ローン、譲渡性預金証書等の短期金融資産で運用する場合、債務不履行により損失が発生することがあります(信用リスク)。この場合、基準価額が下落する要因となります。

ロ．市場の急変時等には、前掲「2 投資方針」にしたがった運用ができない場合があります。

ハ．コンピューター関係の不慮の出来事に起因する市場リスクやシステム上のリスクが生じる可能性があります。

(2)換金性等が制限される場合

通常と異なる状況において、お買付け・ご換金に制限を設けることがあります。くわしくは「第2 管理及び運営」をご参照ください。

(3)その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

指数の変動をその基準価額の変動に適正に反映することができないことについては、< ファンドの特色 >の「基準価額の動きに関する留意点」をご参照下さい。

流動性リスクに関する事項

- ・ 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

(4)リスク管理体制

運用リスク管理体制()は、以下のとおりとなっています。



流動性リスクに対する管理体制

- ・ 委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行いません。
- ・ 取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

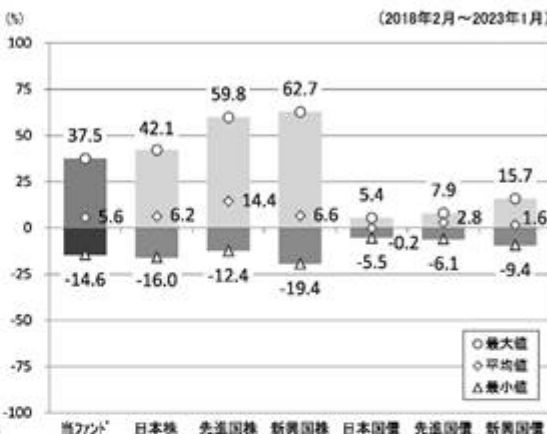
参考情報

- 下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。右のグラフは過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。また左のグラフはファンドの過去5年間における年間騰落率の推移を表示しています。

ファンドの年間騰落率と分配金再投資基準価額の推移



他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
 日本国債：NOMURA-BPI国債
 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
 新興国債：JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス— エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。【<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>】●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公算利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は同社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス— エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

販売会社は、当該販売会社が定める申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を取得申込者から徴収することができるものとします。当該申込手数料は、当該販売会社および受託会社が収受するものとします。

販売会社については、下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

申込手数料は、お買付時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金手数料

販売会社は、受益権の交換または買取りに際して、当該販売会社が定める手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を受益者から徴収することができるものとします。当該手数料は、販売会社ならびに受託会社が収受するものとします。

販売会社については、前(1)をご参照下さい。

信託財産留保額

ありません。

交換手数料は、受益権の交換に関する事務等の対価です。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、次のイ.の額にロ.の額を加算して得た額とし、委託会社と受託会社との間の配分は以下のとおりとします。信託報酬は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。信託報酬は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

イ．信託財産の純資産総額に年率0.165%（税抜0.15%）以内を乗じて得た額

委託会社 年率0.12%（税抜）以内

受託会社 年率0.03%（税抜）以内

* 上記の信託報酬の配分には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

ロ．信託財産に属する株式の貸付けにかかる品貸料（貸付株券から発生する配当金相当額等を含まないものとします。）に55%（税抜50%）以内の率を乗じて得た額。ただし、株式の貸付けにあたって担保として現金を受入れた場合には、当該品貸料に、当該現金の運用により生じたとみなし得る収益を加算し、貸付けの相手方に支払う当該現金に対する利息額を控除して得た額（当該額が負数のときは零とします。）に55%（税抜50%）以内の率を乗じて得た額

なお、提出日現在における上記イ.およびロ.に定める率は、次のとおりとなっております（今後、変更されることがあります。）。

イ．年率0.165%（税抜0.15%）

ロ．55%（税抜50%）

信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

提出日現在における信託報酬にかかる委託会社、受託会社への配分については、次のとおりとなっております（今後、変更されることがあります。）。

イ．前 イ.の報酬

委託会社 年率0.12%（税抜）

受託会社 年率0.03%（税抜）

* 上記の信託報酬の配分には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

□. 前 □. の報酬

委託会社 報酬の50%

受託会社 報酬の50%

信託報酬を対価とする役務の内容は、配分先に応じて、それぞれ以下のとおりです。

委託会社：ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書作成等の対価

受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

(4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および信託財産にかかる監査報酬ならびに当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、受益権の上場にかかる費用および対象指数の商標（これに類する商標を含みます。）の使用料（以下「商標使用料」といいます。）ならびにこれらにかかる消費税等に相当する金額を、受益者の負担として信託財産中から支弁することができます。

* 提出日現在、商標使用料は信託財産の純資産総額に、以下の率を乗じて得た額となります。

| 純資産総額 | 料率 |
|----------------------|-----------------------|
| 2,500億円以下の部分 | 年率0.01650%（税抜0.0150%） |
| 2,500億円超5,000億円以下の部分 | 年率0.01375%（税抜0.0125%） |
| 5,000億円超の部分 | 年率0.01100%（税抜0.0100%） |

* 提出日現在、上場にかかる費用は以下となります。

- ・年間上場料：毎年末の純資産総額に対して、最大0.00825%（税抜0.0075%）
- ・追加上場料：追加上場時の増加額（毎年末の純資産総額について、新規上場時および新規上場した年から前年までの各年末の純資産総額のうち最大のものからの増加額）に対して、0.00825%（税抜0.0075%）

信託財産に属する有価証券等に関連して発生した訴訟係争物たる権利その他の権利に基づいて益金が生じた場合、当該支払いに際して特別に必要となる費用（データ処理費用、郵送料等）は、受益者の負担とし、当該益金から支弁します。

信託財産で有価証券の売買を行なう際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する費用は、信託財産中より支弁します。

（ ）売買委託手数料などの「その他の手数料等」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は特定株式投資信託として取扱われます。

個人の投資者に対する課税

イ．受益権の売却時

受益権を売却される場合には、「申告分離課税」の取扱いとなり、譲渡益に対して20%（所得税15%および地方税5%）の税率で課税されます。

ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

受益権を譲渡して生じた損失金額は上場株式等（特定公社債、公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益・償還差益および申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得・利子所得と通算できます。また、翌年以後3年間、上場株式等の譲渡益・償還差益および配当等・利子から繰越控除することができます。売却時の差益については、他の上場株式等の譲渡損および償還差損との相殺が可能となります。

ロ．収益分配金の受取時

収益分配金は、配当所得として課税され、20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれます。

ただし、2037年12月31日まで、収益分配金の受取時に、収益分配金に対する所得税の源泉徴収額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

収益分配金については、源泉徴収のみで課税関係が終了する申告不要制度を選択することができます。

一方、確定申告を行なう場合には、申告分離課税または総合課税のいずれかを選択します。総合課税を選択した場合は、配当控除の適用があり、その取扱いは、株式の配当金と同様となります。

ハ．受益権と現物株式との交換時

受益権と現物株式との交換についても受益権の譲渡として、前イ．と同様の取扱いとなります。

なお、特定口座にかかる課税上の取扱いにつきましては、販売会社にお問合わせ下さい。

法人の投資者に対する課税

イ．受益権の売却時

通常の株式の売却時と同様に、受益権の取得価額と売却価額との差額について、他の法人所得と合算して課税されます。

ロ．収益分配金の受取時

収益分配金は、配当所得として課税され、15%（所得税15%）の税率で源泉徴収（ ）されます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

ただし、2037年12月31日までは基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。益金不算入制度が適用されます。

源泉徴収された税金は法人税額から控除されます。

ハ．受益権と現物株式との交換時

受益権と現物株式との交換についても受益権の譲渡として、前イ．と同様の取扱いとなります。

() 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

- () 上記は、2023年1月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。
- () 課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】（2023年1月31日現在）

投資状況

| 投資資産の種類 | 時価(円) | 投資比率(%) |
|-----------------------|---------------|---------|
| 株式 | 1,391,137,310 | 99.14 |
| 内 日本 | 1,391,137,310 | 99.14 |
| コール・ローン、その他の資産(負債控除後) | 12,103,326 | 0.86 |
| 純資産総額 | 1,403,240,636 | 100.00 |

その他の資産の投資状況

| 投資資産の種類 | 時価(円) | 投資比率(%) |
|--------------|------------|---------|
| 株価指数先物取引(買建) | 12,456,500 | 0.89 |
| 内 日本 | 12,456,500 | 0.89 |

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(注3) 株価指数先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(2)【投資資産】（2023年1月31日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

| | 銘柄名 | 地域 | 種類 | 業種 | 株数、口数 または 額面金額 | 簿価単価 簿価 (円) | 評価単価 時価 (円) | 投資 比率 (%) |
|---|---------------|----|----|-------|----------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------|
| 1 | トヨタ自動車 | 日本 | 株式 | 輸送用機器 | 32,700 | 1,827.00 59,742,900 | 1,896.50 62,015,550 | 4.42 |
| 2 | 東京海上HD | 日本 | 株式 | 保険業 | 20,800 | 2,738.50 56,960,800 | 2,714.00 56,451,200 | 4.02 |
| 3 | 東京エレクトロン | 日本 | 株式 | 電気機器 | 1,200 | 42,440.00 50,928,000 | 45,170.00 54,204,000 | 3.86 |
| 4 | リクルートホールディングス | 日本 | 株式 | サービス業 | 11,800 | 4,208.00 49,654,400 | 4,144.00 48,899,200 | 3.48 |
| 5 | 任天堂 | 日本 | 株式 | その他製品 | 8,200 | 5,470.00 44,854,000 | 5,625.00 46,125,000 | 3.29 |

| | | | | | | | | |
|----|---------------|----|----|--------|--------|-------------------------|-------------------------|------|
| 6 | HOYA | 日本 | 株式 | 精密機器 | 3,100 | 12,655.00 39,230,500 | 14,200.00 44,020,000 | 3.14 |
| 7 | KDDI | 日本 | 株式 | 情報・通信業 | 8,400 | 3,921.00 32,936,400 | 4,059.00 34,095,600 | 2.43 |
| 8 | 伊藤忠 | 日本 | 株式 | 卸売業 | 7,200 | 4,019.00 28,936,800 | 4,183.00 30,117,600 | 2.15 |
| 9 | 三菱UFJフィナンシャルG | 日本 | 株式 | 銀行業 | 28,900 | 893.30 25,816,370 | 952.70 27,533,030 | 1.96 |
| 10 | 三菱商事 | 日本 | 株式 | 卸売業 | 5,800 | 4,226.00 24,510,800 | 4,336.00 25,148,800 | 1.79 |
| 11 | ダイキン工業 | 日本 | 株式 | 機械 | 1,000 | 21,330.00 21,330,000 | 22,470.00 22,470,000 | 1.60 |
| 12 | 村田製作所 | 日本 | 株式 | 電気機器 | 3,000 | 6,962.00 20,886,000 | 7,394.00 22,182,000 | 1.58 |
| 13 | 中外製薬 | 日本 | 株式 | 医薬品 | 6,400 | 3,307.00 21,164,800 | 3,358.00 21,491,200 | 1.53 |
| 14 | MS&AD | 日本 | 株式 | 保険業 | 5,100 | 4,131.00 21,068,100 | 4,159.00 21,210,900 | 1.51 |
| 15 | オリックス | 日本 | 株式 | その他金融業 | 9,200 | 2,097.00 19,292,400 | 2,275.00 20,930,000 | 1.49 |
| 16 | SOMPOホールディングス | 日本 | 株式 | 保険業 | 3,700 | 5,634.00 20,845,800 | 5,585.00 20,664,500 | 1.47 |
| 17 | SMC | 日本 | 株式 | 機械 | 300 | 59,750.00 17,925,000 | 65,350.00 19,605,000 | 1.40 |
| 18 | 日本電信電話 | 日本 | 株式 | 情報・通信業 | 5,000 | 3,696.00 18,480,000 | 3,892.00 19,460,000 | 1.39 |
| 19 | 三井住友フィナンシャルG | 日本 | 株式 | 銀行業 | 3,200 | 5,285.00 16,912,000 | 5,652.00 18,086,400 | 1.29 |
| 20 | 富士通 | 日本 | 株式 | 電気機器 | 900 | 17,650.00 15,885,000 | 18,510.00 16,659,000 | 1.19 |
| 21 | アステラス製薬 | 日本 | 株式 | 医薬品 | 8,400 | 1,901.50 15,972,600 | 1,912.50 16,065,000 | 1.14 |
| 22 | 第一三共 | 日本 | 株式 | 医薬品 | 3,800 | 4,030.00 15,314,000 | 4,064.00 15,443,200 | 1.10 |
| 23 | 日本電産 | 日本 | 株式 | 電気機器 | 1,900 | 6,928.00 13,163,200 | 7,170.00 13,623,000 | 0.97 |
| 24 | 大和ハウス | 日本 | 株式 | 建設業 | 4,100 | 3,008.00 12,332,800 | 3,111.00 12,755,100 | 0.91 |
| 25 | 日本取引所グループ | 日本 | 株式 | その他金融業 | 6,200 | 1,831.00 11,352,200 | 1,979.00 12,269,800 | 0.87 |

| | | | | | | | | |
|----|-----------|----|----|--------|-------|------------------------|-------------------------|------|
| 26 | 花王 | 日本 | 株式 | 化学 | 2,300 | 5,099.00 11,727,700 | 5,256.00 12,088,800 | 0.86 |
| 27 | ソフトバンク | 日本 | 株式 | 情報・通信業 | 7,800 | 1,465.50 11,430,900 | 1,486.50 11,594,700 | 0.83 |
| 28 | 小松製作所 | 日本 | 株式 | 機械 | 3,500 | 2,851.00 9,978,500 | 3,155.00 11,042,500 | 0.79 |
| 29 | アドバンテスト | 日本 | 株式 | 電気機器 | 1,200 | 8,670.00 10,404,000 | 9,200.00 11,040,000 | 0.79 |
| 30 | オリエンタルランド | 日本 | 株式 | サービス業 | 500 | 19,110.00 9,555,000 | 21,580.00 10,790,000 | 0.77 |

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

| 投資有価証券の種類 | 投資比率 |
|-----------|--------|
| 株式 | 99.14% |
| 合計 | 99.14% |

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

| 業種 | 投資比率 |
|----------|--------|
| 水産・農林業 | 0.04% |
| 鉱業 | 0.28% |
| 建設業 | 2.20% |
| 食料品 | 2.55% |
| 繊維製品 | 0.24% |
| パルプ・紙 | 0.17% |
| 化学 | 6.06% |
| 医薬品 | 6.10% |
| 石油・石炭製品 | 0.82% |
| ゴム製品 | 0.52% |
| ガラス・土石製品 | 0.53% |
| 鉄鋼 | 0.22% |
| 非鉄金属 | 0.61% |
| 金属製品 | 0.18% |
| 機械 | 5.96% |
| 電気機器 | 13.08% |
| 輸送用機器 | 4.68% |
| 精密機器 | 3.79% |
| その他製品 | 4.79% |

| | |
|------------|--------|
| 電気・ガス業 | 1.61% |
| 陸運業 | 1.28% |
| 海運業 | 0.89% |
| 空運業 | 0.06% |
| 倉庫・運輸関連業 | 0.15% |
| 情報・通信業 | 8.62% |
| 卸売業 | 6.01% |
| 小売業 | 2.74% |
| 銀行業 | 5.08% |
| 証券、商品先物取引業 | 0.54% |
| 保険業 | 8.26% |
| その他金融業 | 2.52% |
| 不動産業 | 1.39% |
| サービス業 | 7.18% |
| 合計 | 99.14% |

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の時価の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

(単位：円)

| 種類 | 地域 | 資産名 | 買建/ 売建 | 数量 | 簿価 | 時価 | 投資 比率 |
|--------------|----|-------------------|-----------|----|------------|------------|----------|
| 株価指数先物 取引 | 日本 | NK400先物 050 3月 | 買建 | 7 | 11,858,000 | 12,456,500 | 0.89% |

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 株価指数先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

| | 純資産総額 (分配落) (円) | 純資産総額 (分配付) (円) | 1口当たりの 純資産額 (分配落)(円) | 1口当たりの 純資産額 (分配付)(円) | 東京証券取 引所 市場相場 |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------|
| 第1計算期間末 (2018年1月10日) | 1,137,832,014 | 1,146,663,318 | 2,228.95 | 2,246.25 | 2,230 |

| | | | | | |
|--------------------------|---------------|---------------|----------|----------|-------|
| 第2計算期間末 (2018年7月10日) | 1,055,705,178 | 1,067,088,882 | 2,068.06 | 2,090.36 | 2,077 |
| 第3計算期間末 (2019年1月10日) | 1,206,253,083 | 1,217,828,603 | 1,834.05 | 1,851.65 | 1,838 |
| 第4計算期間末 (2019年7月10日) | 1,070,711,265 | 1,087,496,535 | 1,913.66 | 1,943.66 | 1,910 |
| 第5計算期間末 (2020年1月10日) | 1,301,077,803 | 1,312,288,168 | 2,135.51 | 2,153.91 | - |
| 第6計算期間末 (2020年7月10日) | 1,185,442,210 | 1,199,455,167 | 1,945.71 | 1,968.71 | 1,975 |
| 第7計算期間末 (2021年1月10日) | 1,069,079,876 | 1,080,412,235 | 2,320.73 | 2,345.33 | 2,284 |
| 第8計算期間末 (2021年7月10日) | 1,544,328,375 | 1,556,589,346 | 2,342.76 | 2,361.36 | 2,307 |
| 第9計算期間末 (2022年1月10日) | 1,486,893,386 | 1,499,726,528 | 2,433.13 | 2,454.13 | 2,447 |
| 2022年1月末日 | 1,400,667,680 | - | 2,292.04 | - | - |
| 2月末日 | 1,390,008,295 | - | 2,274.59 | - | - |
| 3月末日 | 1,462,347,660 | - | 2,392.97 | - | 2,399 |
| 4月末日 | 1,420,024,212 | - | 2,323.71 | - | 2,283 |
| 5月末日 | 1,425,803,103 | - | 2,333.17 | - | 2,348 |
| 6月末日 | 1,375,643,795 | - | 2,251.09 | - | 2,270 |
| 第10計算期間末 (2022年7月10日) | 1,377,648,827 | 1,395,615,225 | 2,254.37 | 2,283.77 | - |
| 7月末日 | 1,418,486,816 | - | 2,321.19 | - | 2,327 |
| 8月末日 | 1,422,114,424 | - | 2,327.13 | - | - |
| 9月末日 | 1,345,515,072 | - | 2,201.78 | - | - |
| 10月末日 | 1,405,891,351 | - | 2,300.58 | - | 2,293 |
| 11月末日 | 1,442,162,336 | - | 2,359.94 | - | 2,351 |
| 12月末日 | 1,370,822,097 | - | 2,243.20 | - | 2,244 |
| 第11計算期間末 (2023年1月10日) | 1,345,450,101 | 1,361,094,312 | 2,201.68 | 2,227.28 | 2,202 |
| 2023年1月末日 | 1,403,240,636 | - | 2,296.25 | - | - |

(注) 計算期間末日が休業日の場合は、前営業日の市場相場を記載しております。

【分配の推移】

| | 1口当たり分配金(円) |
|--------|-------------|
| 第1計算期間 | 17.30 |
| 第2計算期間 | 22.30 |

| | |
|---------|-------|
| 第3計算期間 | 17.60 |
| 第4計算期間 | 30.00 |
| 第5計算期間 | 18.40 |
| 第6計算期間 | 23.00 |
| 第7計算期間 | 24.60 |
| 第8計算期間 | 18.60 |
| 第9計算期間 | 21.00 |
| 第10計算期間 | 29.40 |
| 第11計算期間 | 25.60 |

【収益率の推移】

| | 収益率(%) |
|---------|--------|
| 第1計算期間 | 12.6 |
| 第2計算期間 | 6.2 |
| 第3計算期間 | 10.5 |
| 第4計算期間 | 6.0 |
| 第5計算期間 | 12.6 |
| 第6計算期間 | 7.8 |
| 第7計算期間 | 20.5 |
| 第8計算期間 | 1.8 |
| 第9計算期間 | 4.8 |
| 第10計算期間 | 6.1 |
| 第11計算期間 | 1.2 |

(4) 【設定及び解約の実績】

| | 設定数量(口) | 解約数量(口) |
|---------|---------|---------|
| 第1計算期間 | 510,480 | 0 |
| 第2計算期間 | 0 | 0 |
| 第3計算期間 | 147,220 | 0 |
| 第4計算期間 | 49,580 | 147,771 |
| 第5計算期間 | 49,750 | 0 |
| 第6計算期間 | 0 | 0 |
| 第7計算期間 | 49,710 | 198,304 |
| 第8計算期間 | 446,620 | 248,093 |
| 第9計算期間 | 0 | 48,090 |
| 第10計算期間 | 0 | 0 |
| 第11計算期間 | 0 | 0 |

(注) 当初設定数量は510,480口です。

(参考情報) 運用実績

● iFreeETF MSCI日本株女性活躍指数(WIN)

2023年1月31日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

| | |
|-------|----------|
| 基準価額 | 229,625円 |
| 純資産総額 | 14億円 |

| 基準価額の騰落率 | |
|----------|-------|
| 期間 | ファンド |
| 1カ月間 | 3.6% |
| 3カ月間 | 1.0% |
| 6カ月間 | 0.1% |
| 1年間 | 2.7% |
| 3年間 | 17.4% |
| 5年間 | 18.8% |
| 設定来 | 29.2% |



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(100口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 5,500円 設定来分配金合計額: 24,780円

| 決算期 | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 18年1月 | 18年7月 | 19年1月 | 19年7月 | 20年1月 | 20年7月 | 21年1月 | 21年7月 | 22年1月 | 22年7月 | 23年1月 |
| 分配金 | 1,730円 | 2,230円 | 1,760円 | 3,000円 | 1,840円 | 2,300円 | 2,460円 | 1,860円 | 2,100円 | 2,940円 | 2,560円 |

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

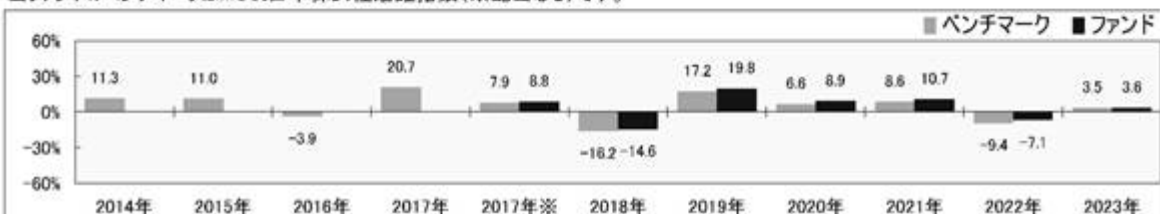
※比率は、純資産総額に対するものです。

| 資産別構成 | 銘柄数 | 比率 | 株式東証33業種別構成 | 比率 | 組入上位10銘柄 | 業種名 | 比率 |
|-------------|-----|-------|-------------|-------|---------------|--------|-------|
| 国内株式 | 371 | 99.1% | 電気機器 | 13.1% | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 4.4% |
| 国内株式先物 | 1 | 0.9% | 情報・通信業 | 8.6% | 東京海上HD | 保険業 | 4.0% |
| 不動産投資信託等 | - | - | 保険業 | 8.3% | 東京エレクトロン | 電気機器 | 3.9% |
| コール・ローン、その他 | - | 0.9% | サービス業 | 7.2% | リクルートホールディングス | サービス業 | 3.5% |
| 合計 | 372 | - | 医薬品 | 6.1% | 任天堂 | その他製品 | 3.3% |
| 株式市場・上場別構成 | | | 化学 | 6.1% | HOYA | 精密機器 | 3.1% |
| 東証プライム市場 | | 98.5% | 卸売業 | 6.0% | KDDI | 情報・通信業 | 2.4% |
| 東証スタンダード市場 | | 0.6% | 機械 | 6.0% | 伊藤忠 | 卸売業 | 2.1% |
| 東証グロース市場 | | 0.0% | 銀行業 | 5.1% | 三菱UFJフィナンシャルG | 銀行業 | 2.0% |
| 地方市場・その他 | | - | その他 | 32.8% | 三菱商事 | 卸売業 | 1.8% |
| 合計 | | 99.1% | 合計 | 99.1% | 合計 | | 30.5% |

※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

年間収益率の推移

当ファンドのベンチマークはMSCI日本株女性活躍指数(※配当なし)です。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。ベンチマークの「年間収益率」は上記ベンチマークのデータに基づき当社が計算したものです。

・2017年※は設定日(9月25日)から年末、2023年は1月31日までの騰落率を表しています。

・当該ベンチマークの情報はあくまで参考情報として記載しており、ファンドの運用実績を表したものではありません。

委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

受益権の取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得の申込みを行なうものとします。

受益権の取得申込者は、対象株価指数を構成する各銘柄の株式の数の構成比率に相当する比率により構成される各銘柄の株式として委託会社が指定するもの（以下「取得時のバスケット」といいます。）を単位として、受益権を取得しなければならないものとします。また、当該取得時のバスケットの評価額（法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た額をいいます。以下同じ。）をもって、それに相当するものとして委託会社が定める一定口数の受益権を単位として取得するものとします。受益権の価額は、取得申込受付日の基準価額とします。

受益権の取得申込者が、委託会社が別に定める時限までに取得申込みをした場合には、当日を取得申込受付日として委託会社は当該取得申込みを受付けます。

取得申込受付日に対応する取得時のバスケットを構成する各株式の銘柄名とその数量は、委託会社が取得申込受付日以前の別に定める期日に別に定める方法により提示するものとします。

前 の規定にかかわらず、受益権の取得申込者は、取得時のバスケットの評価額が取得する一定口数の受益権の評価額に満たない場合には、その差額に相当する部分を金銭をもって支払うものとします。

前 の規定にかかわらず、取得時のバスケットに受益権の取得申込者が発行した株式またはその親会社（会社法第2条第1項第4号に規定する親会社をいいます。以下同じ。）が発行した株式（以下本 において「自社株式等」といいます。）が含まれる場合には、当該取得申込者は当該自社株式等に代えて当該自社株式等に相当する金額（評価額により算出したものに限ります。）に、当該自社株式等を信託財産において取得するため必要な経費に相当するものとして当該金額に別に定める率を乗じて得た額を加算して得た金額の金銭をもって取得することができるものとします。

前 に該当する場合には、受益権の取得申込者は、販売会社を通じてその旨を委託会社に通知するものとします。この通知が取得申込みの際に行なわれなかった場合において、そのことによって当該取得申込者または信託財産その他に損害が生じた場合には、当該取得申込者がすべての責を負うものとします。

前 の規定にかかわらず、取得時のバスケットに、その配当落ちまたは権利落ち後、当該配当を受けまたは当該権利を取得することができる者が確定する日またはその前営業日に取得の申込みに応じて受益権の受渡しが行なわれることとなる株式（以下本 において「配当落ち株式等」といいます。）が含まれる場合には、当該取得申込者は当該配当落ち株式等に代えて当該配当落ち株式等に相当する金額（評価額により算出したものに限ります。）に、当該配当落ち株式等を信託財産において取得するため必要な経費に相当するものとして当該金額に別に定める率を乗じて得た額を加算して得た金額の金銭をもって取得することができるものとします。

販売会社は、取得申込みにかかる取得時のバスケットの各銘柄の株式を、取得申込みにかかる信託が設定される日までに、別に定める契約に基づき委託会社に代わって受託会社に引渡すものとします。

販売会社は、受益権の取得申込者が引渡すべき取得時のバスケットの各銘柄の一部の引渡日を別に定める方法に基づいて指定する場合には、担保金を差入れるものとします。なお、担保金に付利は行なわないものとします。担保金が差入れられた場合には、委託会社は信託財産への担保金の受入れの指図を行なうものとします。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、前 に定める株式（前 、前 および前 に該当する場合の金銭を含みます。）または前 に定める担保金の引渡しと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行なうことができます。また、別に定める金融商品取引清算機関（金融商品取引法第2条第29項に規定する金融商品取引清算機関とし、以下「清算機関」といいます。）の業務方法書（以下「業務方法書」といいます。）に定めるところにより、取得申込みを受付けた販売会社が、当該取得申込みの受付によって生じる株式および金銭の委託会社への受渡または支払いの債務の負担を清算機関に申込み、これを当該清算機関が負担する場合には、振替機関等における当該清算機関の名義の口座に口数の増加の記載または記録が行なわれ、取得申込者が自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座における口数の増加の記載または記録は、当該清算機関と販売会社（販売会社による清算機関への債務の負担の申込みにおいて、当該販売会社の委託を受けて金融商品取引法第2条第27項に定める有価証券等清算取次ぎが行なわれる場合には、当該有価証券等清算取次ぎを行なう金融商品取引業者または登録金融機関を含みます。）との間で振替機関等を介して行なわれます。別に定める金融商品取引清算機関は、株式会社日本証券クリアリング機構とします。

委託会社は、原則として、次の1.から4.までに該当する場合は、受益権の取得申込みの受け付けを停止します。なお、次の1.から3.までに該当する場合であっても、委託会社の判断により、受益権の取得申込みを受け付けることがあります。

1. 対象株価指数構成銘柄の配当落日および権利落日
2. 対象株価指数構成銘柄の変更および増減資等に伴う株数の変更日の2営業日前から起算して6営業日以内
3. 計算期間終了日の4営業日前から起算して4営業日以内（ただし、計算期間終了日が休業日の場合は、当該計算期間終了日の5営業日前から起算して5営業日以内）
4. 前1.から前3.までのほか、委託会社が、運用の基本方針に沿った運用に支障を来すおそれのあるやむを得ない事情が生じたものと認めたとき

販売会社は、当該販売会社が定める手数料ならびに当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を、受益権の取得申込者から徴収することができるものとします。当該手数料は、販売会社ならびに受託会社が収受するものとします。

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときおよび委託会社が必要と認めるときは、取得申込みの受け付けの中止、取得申込みの受け付けの取消またはその両方を行なうことができます。

委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

受託会社は、信託契約締結日に生じた受益権については信託契約締結時に、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、前 に定める株式（前 、前 および前 に該当する場合の金銭を含みます。）または前 に定める担保金について、受入れまたは振替済みの通知を受けた場合、振替機関に対し当該受益権にかかる信託が行なわれた旨を通知するものとします。ただし、業務方法書に定めるところにより、当該株式および金銭の委託会社への受渡または支払いの債務を清算機関が負担する場合には、受託会社は、委託会社の指図に基づき、当該株式および金銭についての受入れまたは振替済み

の通知にかかわらず、振替機関に対し当該受益権にかかる信託が行なわれた旨を通知するものとします。

2【換金（解約）手続等】

<解約>

受益者は、自己に帰属する受益権（受託会社が「3 資産管理等の概要(5)」に規定する重大な信託約款の変更等に反対した受益者からの「3 資産管理等の概要(5)」の規定による請求により買取った受益権を除きます。）につき、信託期間中において、当ファンドの一部解約請求をすることはできません。

<交換>

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、当該受益権と当該受益権の信託財産に対する持分に相当する株式との交換（以下「交換」といいます。）を請求することができます。

受益者が交換請求をするときは、販売会社に対し、委託会社が定める一定口数の整数倍の振替受益権をもって行なうものとします。

交換を請求しようとする受益者が、委託会社が別に定める時限までに交換請求をした場合には、当日を交換請求受付日として委託会社は当該交換請求を受け付けます。

委託会社は、交換に際し、信託財産に属する株式の評価額をもって、それに相当する口数の受益権と交換するものとします。交換に際し、受益権の価額は、交換請求受付日の基準価額とします。

前 の規定にかかわらず、委託会社は、原則として、次の1.から3.までに該当する場合は、受益権の交換請求の受け付けを停止します。なお、次の1.から2.までに該当する場合であっても、委託会社の判断により、受益権の交換請求を受け付けることがあります。

1. 対象株価指数構成銘柄の変更および増減資等に伴う株数の変更日の2営業日前から起算して6営業日以内
2. 計算期間終了日の4営業日前から起算して4営業日以内（ただし、計算期間終了日が休業日の場合は、当該計算期間終了日の5営業日前から起算して5営業日以内）
3. 前1.から前2.までのほか、委託会社が、運用の基本方針に沿った運用に支障を来すおそれのあるやむを得ない事情が生じたものと認めるとき

販売会社は、振替機関の定める方法により、振替受益権の抹消にかかる手続を行なうものとします。なお、業務方法書に定めるところにより、当該販売会社が、振替受益権の委託会社への受渡しの債務の負担を清算機関に申込み、これを当該清算機関が負担する場合には、当該清算機関が振替受益権の抹消にかかる手続を行ないます。当該抹消にかかる手続および後 に掲げる交換株式にかかる振替請求が行なわれた後に、振替機関は、後 または後 に定める当該交換にかかる受益権の口数と同口数の振替受益権を抹消するものとし、社振法の規定にしたがい振替機関等の口座に前 の交換の請求を行なった受益者にかかる当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

受託会社は、後 または後 の委託会社の交換の指図に基づいて、交換にかかる振替受益権については、振替口座簿における抹消の手続きおよび後 に定める抹消の確認をもって、当該振替受益権を受入れ、抹消したものととして取扱います。

販売会社は、当該販売会社が定める手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を交換請求者から徴収することができるものとします。当該手数料は、販売会社ならびに受託会社が収受するものとします。

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときおよび委託会社が必要と認めるときは、交換請求の受付けの中止、交換請求の受付けの取消またはその両方を行なうことができます。

前 の規定により交換請求の受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の交換請求を撤回することができます。ただし、受益者がその交換請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に交換請求を受付けたものとして計算されるものとします。

委託会社は、交換の請求を受付けた場合には、当該請求にかかる受益権と、当該受益権の信託財産に対する持分に相当する株式として委託会社が指定するものとの交換を行なうよう受託会社に指図します。

前 の規定にかかわらず、委託会社が指定する株式に当該請求を行なった受益者が発行した株式またはその親会社が発行した株式（以下本 において「自社株式等」といいます。）が含まれる場合には、原則として、委託会社は、前 の請求にかかる受益権の口数から当該自社株式等に相当する金額（評価額により算出したものから、当該株式売却および当該売却代金により信託財産中の株式の銘柄およびその数量を変更するための取引にかかる経費に相当する金額として、当該評価額に別に定める率を乗じて得た額を減じた金額とします。）に相当する口数を除いた口数の受益権と、当該受益権の持分に相当する株式（当該自社株式等を除きます。）を交換するよう受託会社に指図するものとします。

前 に該当する場合には、交換請求を行なう受益者は、販売会社を通じてその旨を委託会社に通知するものとします。この通知が交換請求の際に行なわれなかった場合において、そのことによって交換請求者または信託財産その他に損害が生じた場合には、交換請求者がすべての責を負うものとします。

前 の規定にかかわらず、前 の委託会社が指定する株式に、その配当落ちまたは権利落ち後、当該配当を受けまたは当該権利を取得することができる者が確定する日に交換の申込みに応じて受益権の受渡しが行なわれることとなる株式（以下本 において「配当落ち株式等」といいます。）が含まれる場合には、委託会社は、当該配当落ち株式等に代えて当該配当落ち株式等の評価額（当該評価額から、当該株式売却および当該売却代金により信託財産中の株式の銘柄およびその数量を変更するための取引にかかる経費に相当する金額として、当該評価額に別に定める率を乗じて得た額を減じた額とします。）に相当する金銭の交付をもって交換するよう受託会社に指図することができるものとします。

受託会社は、前 に掲げる手続きが行なわれたことを確認したときには、委託会社の指図にしたがい、振替機関の定める方法により信託財産に属する交換株式にかかる振替請求および金銭の交付を行なうものとします。ただし、業務方法書の定めるところにより、前 に掲げる交換の請求を受付けた販売会社が、振替受益権の委託会社への受渡しの債務の負担を当該清算機関に申込み、これを当該清算機関が負担する場合には、受託会社は、前 に掲げる手続きにかかわらず、委託会社の指図にしたがい、振替機関の定める方法により信託財産に属する交換株式にかかる振替請求および金銭の交付を行なうものとします。別に定める期日から、受益者への交換株式の交付に際しては振替機関等の口座に前 の交換の請求を行なった受益者にかかる株数の増加の記載または記録が行なわれ、受益者への金銭の交付については販売会社において行なわれます。

委託会社は、交換請求受付日の翌営業日以降、交換によって抹消されることとなる振替受益権と同口数の受益権を失効したものとして取扱うこととし、受託会社は、当該受益権にかかる振替受益権が交換株式の振替日に抹消済みであることを確認するものとします。

< 買取り >

販売会社は、次に該当する場合で、受益者の請求があるときは、その受益権を買取ります。ただし、
2. の場合の請求は、信託終了日の2営業日前までとします。

1. 交換により取引所売買単位未満の振替受益権が生じた場合
2. 受益権を上場したすべての金融商品取引所において上場廃止になった場合

前 の買取価額は、買取請求受付日の基準価額から、販売会社が定める手数料および当該手数料に対する消費税等に相当する金額を控除した価額とすることができます。

販売会社は、金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社との協議に基づいて受益権の買取りを停止することができます。

前 の規定により受益権の買取りが停止された場合には、受益者は買取停止以前に行なった当日の買取請求を撤回することができます。ただし、受益者がその買取請求を撤回しない場合には、当該受益権の買取価額は、買取停止を解除した後の最初の基準価額の計算日に買取請求を受付けたものとして、前の規定に準じて計算されたものとします。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した100口当たりの価額をいいます。

純資産総額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価（注）により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（注）主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・対象株価指数に採用されている銘柄（採用予定を含みます。）の株式：
原則として金融商品取引所における計算日の最終相場で評価します。

基準価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または下記にお問合わせ下さい。

大和アセットマネジメント株式会社

電話番号（コールセンター） 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

無期限とします。ただし、(5) により信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4) 【計算期間】

毎年1月11日から7月10日まで、および7月11日から翌年1月10日までとします。ただし、第1計算期間は、2017年9月25日から2018年1月10日までとします。

(5) 【その他】

信託の終了

1. 委託会社は、受益権の口数が 20万口を下ることとなった場合もしくは信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
2. 委託会社は、受益権を上場したすべての金融商品取引所において上場廃止となった場合または対象株価指数が廃止された場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。なお、受益権を上場したすべての金融商品取引所において当該受益権の上場が廃止された場合には、委託会社は、その廃止された日に、信託を終了するための手続きを開始するものとします。
3. 委託会社は、前1.の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行いません。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
4. 前3.の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本4.において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、信託契約にかかる知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
5. 前3.の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
6. 前3.から前5.までの規定は、前2.の規定に基づいて信託契約を解約するとき、あるいは、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前3.から前5.までの手続きを行なうことが困難な場合も同じとします。
7. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
8. 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
9. 受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは当ファンドと他のファンドとの併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、信託約款は本の1.から7.までに定める以外の方法によって変更することができないものとします。

2. 委託会社は、前1.の事項(前1.の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前1.の併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な信託約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
3. 前2.の書面決議において、受益者(委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本3.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、信託約款にかかる知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
4. 前2.の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
5. 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。
6. 前2.から前5.までの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
7. 前1.から前6.までの規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
8. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、前1.から前7.までの規定にしたがいます。

反対者の買取請求権

前 の1.から6.までの規定にしたがい信託契約の解約を行なう場合または前 の規定にしたがい重大な信託約款の変更等を行なう場合には、書面決議において当該解約または重大な信託約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続きに関する事項は、前 の3.または前 の2.に規定する書面に付記します。

公告

1. 委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。
<https://www.daiwa-am.co.jp/>
2. 前1.の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

関係法人との契約の更改

受益権の募集、交換の取扱い等に関する委託会社、受託会社および販売会社との三者間契約は、期間満了の1か月(または3か月)前までに、委託会社、受託会社もしくは販売会社のいずれからも何ら意思の表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

4【受益者の権利等】

信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託会社の指定する受益権取得申込者とし、分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。ただし、業務方法書に定めるところにより、取得申込みを受付けた販売会社が、当該取得申込みの受け付けによって生じる株式および金銭の委託会社への受渡または支払いの債務の負担を当該清算機関に申込み、これを当該清算機関が負担する場合の信託契約締結当初または追加信託当初の受益者は当該清算機関とします。

受益者の有する主な権利の内容、その行使の方法等は、次のとおりです。

収益分配金にかかる請求権

<支払方法>

1. 受益者は、収益分配金（分配金額は、委託会社が決定します。）を持分に応じて請求する権利を有します。
2. 受託会社は、計算期間終了日現在において、氏名または名称、住所および個人番号（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律第2条に規定する個人番号をいいます。）または法人番号（同法同条に規定する法人番号をいいます。）（個人番号もしくは法人番号を有しない者または収益の分配につき租税特別措置法第9条の3の2第1項に規定する支払の取扱者を通じて交付を受ける者にあつては、氏名または名称および住所とします。）が受託会社に登録されている者（以下「名義登録受益者」といいます。）を当該計算期間終了日における収益分配金受領権者とし、収益分配金を当該名義登録受益者に支払います。
3. 受益者は、原則として前2.に規定する登録を当ファンドの受益権が上場されている金融商品取引所の取引参加者（口座管理機関であるものに限ります。以下同じ。）を経由して行なうものとします。この場合、当該取引参加者は、当該取引参加者が定める手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を徴することができるものとします。
4. 社振法関係法令等に基づき、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益権の名義登録の手続きは原則として以下のとおりとします。
 - イ. 受益権は、前3.の取引参加者の振替口座簿に口数が記載または記録されることにより、当該振替口座簿に記載または記録された口数に応じた受益権が帰属します。
 - ロ. 前3.の取引参加者は、計算期間終了日までに当該取引参加者にかかる前イ.の受益権の受益者の氏名もしくは名称および住所その他受託会社が定める事項を書面等により受託会社に届出るものとします。また、届出た内容に変更が生じた場合は、当該取引参加者所定の方法による当該受益者からの申出に基づき、当該取引参加者はこれを受託会社に通知するものとします。
 - ハ. 前3.の取引参加者は、計算期間終了日現在の当該取引参加者にかかる前イ.の受益権の受益者の振替機関の定める事項を（当該取引参加者が直接口座管理機関でない場合はその上位機関を通じて）振替機関に報告するとともに、振替機関は業務規程等に基づき、これを受託会社に通知するものとします。
5. 信託契約締結当初および追加信託時の受益者については、前2.に規定する登録を行なったうえで、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されるものとします。
6. 前2.に規定する収益分配金の支払いは、原則として、毎計算期間終了後40日以内の委託会社の指定する日に、名義登録受益者があらかじめ指定した預金口座等に当該収益分配金を振込む方式により行なうものとします。なお、名義登録受益者が前3.に規定する取引参加者と別途収益分配金の取扱いにかかる契約を締結している場合は、当該契約にしたがい支払われるものとします。
7. 受託会社は、支払開始日から5年経過した後に、収益分配金について未払残高があるときは、当該金額を委託会社に交付するものとします。

8. 受託会社は、前7.の規定により委託会社に収益分配金を交付した後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。
9. 受益者が、収益分配金については支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社に帰属します。

信託終了時の交換等

1. 委託会社は、信託が終了することとなったときは、委託会社が別に定める一定口数以上の受益権を有する受益者に対しては、当該受益権の信託財産に対する持分に相当する株式を当該受益権として振替口座簿に記載または記録されている振替受益権と引換えに交換するものとします。この場合は、「2 換金(解約)手続等」の規定に準じるものとします。
2. 委託会社が信託の終了に関して指定する販売会社は、委託会社が別に定める一定口数未満の受益権について買取るものとします。この場合には、当該販売会社が別に定める手数料および当該手数料に対する消費税等に相当する金額を徴することができるものとします。
3. 信託終了に際して、委託会社が信託終了に関して指定する販売会社は、その所有にかかるすべての受益権を交換請求するものとします。交換により引渡される株式に当該販売会社が発行した株式またはその親会社が発行した株式(以下本3.において「自社株式等」といいます。)が含まれる場合には、委託会社は、受託会社に対しこれを売却する指図をするとともに、当該自社株式等の評価額に相当する口数の受益権を、受託会社は信託財産をもって買取るものとします。
4. 受益者が、信託終了時の交換について信託終了日から10年間その交換請求をしないときは、その権利を失い、委託会社に帰属します。

交換請求権および買取請求権

受益者は、保有する受益権について、交換または買取りを請求する権利を有します。権利行使の方法等については、「2 換金(解約)手続等」をご参照下さい。

第3 【ファンドの経理状況】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第11期計算期間（2022年7月11日から2023年1月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

| | 第10期 2022年7月10日現在 | 第11期 2023年1月10日現在 |
|-----------------|----------------------|----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | 25,141,979 | 26,627,749 |
| 株式 | 2 1,369,619,400 | 2 1,333,941,270 |
| 派生商品評価勘定 | 6,890 | - |
| 未収配当金 | 1,978,554 | 1,759,480 |
| 前払金 | 860,300 | 1,051,000 |
| 流動資産合計 | 1,397,607,123 | 1,363,379,499 |
| 資産合計 | 1,397,607,123 | 1,363,379,499 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 派生商品評価勘定 | 203,240 | 394,070 |
| 未払金 | 529,200 | 576,180 |
| 未払収益分配金 | 17,966,398 | 15,644,211 |
| 未払受託者報酬 | 230,794 | 233,906 |
| 未払委託者報酬 | 923,315 | 935,734 |
| 未払利息 | 40 | - |
| その他未払費用 | 105,309 | 145,297 |
| 流動負債合計 | 19,958,296 | 17,929,398 |
| 負債合計 | 19,958,296 | 17,929,398 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 1 1,219,148,490 | 1 1,219,148,490 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | 158,500,337 | 126,301,611 |
| （分配準備積立金） | 10,244 | 34,148 |
| 元本等合計 | 1,377,648,827 | 1,345,450,101 |
| 純資産合計 | 1,377,648,827 | 1,345,450,101 |
| 負債純資産合計 | 1,397,607,123 | 1,363,379,499 |

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

| | 第10期 | | 第11期 | |
|-----------------|------|----------------------------|------|----------------------------|
| | 自 | 2022年1月11日 至 2022年7月10日 | 自 | 2022年7月11日 至 2023年1月10日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取配当金 | | 19,457,434 | | 17,253,832 |
| 受取利息 | | 86 | | 25 |
| 有価証券売買等損益 | | 108,244,501 | | 32,335,030 |
| 派生商品取引等損益 | | 982,910 | | 112,400 |
| その他収益 | | 2,388 | | 995 |
| 営業収益合計 | | 89,767,503 | | 14,967,778 |
| 営業費用 | | | | |
| 支払利息 | | 2,162 | | 3,968 |
| 受託者報酬 | | 230,794 | | 233,906 |
| 委託者報酬 | | 923,315 | | 935,734 |
| その他費用 | | ₁ 354,387 | | ₁ 413,129 |
| 営業費用合計 | | 1,510,658 | | 1,586,737 |
| 営業損失() | | 91,278,161 | | 16,554,515 |
| 経常損失() | | 91,278,161 | | 16,554,515 |
| 当期純損失() | | 91,278,161 | | 16,554,515 |
| 期首剰余金又は期首欠損金() | | 267,744,896 | | 158,500,337 |
| 分配金 | | ₂ 17,966,398 | | ₂ 15,644,211 |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | | 158,500,337 | | 126,301,611 |

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| 区 分 | 第11期 | |
|------------------------|--|--------------|
| | 自 2022年7月11日 | 至 2023年1月10日 |
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | <p>株式</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> | |
| 2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 | <p>先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p> | |
| 3. 収益及び費用の計上基準 | <p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p> | |

(貸借対照表に関する注記)

| 区 分 | 第10期 | 第11期 |
|---------------------|----------------|----------------|
| | 2022年7月10日現在 | 2023年1月10日現在 |
| 1. 1 期首元本額 | 1,219,148,490円 | 1,219,148,490円 |
| 期中追加設定元本額 | - 円 | - 円 |
| 期中一部交換元本額 | - 円 | - 円 |
| 2. 計算期間末日における受益権の総数 | 611,102口 | 611,102口 |

| | | | | |
|----|---|---------------|--|--|
| 3. | 2 | 差入委託証拠金代用有価証券 | 先物取引に係る差入委託証拠金代用有価証券として以下のとおり差入を行っております。 株式 12,805,500円 | 先物取引に係る差入委託証拠金代用有価証券として以下のとおり差入を行っております。 株式 11,586,000円 |
|----|---|---------------|--|--|

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 区 分 | 第10期 | 第11期 |
|---------------|--|--|
| | 自 2022年1月11日 至 2022年7月10日 | 自 2022年7月11日 至 2023年1月10日 |
| 1. 1 その他費用 | 主に、分配金の支払い事務にかかる諸費用であります。 | 主に、分配金の支払い事務にかかる諸費用及び対象指数の商標の使用料であります。 |
| 2. 2 分配金の計算過程 | 当計算期間中に計上した受取配当金、配当株式、受取利息及びその他収益金から支払利息を控除した当期配当等収益額（19,457,746円）及び分配準備積立金(27,392円)の合計額から、経費(1,508,496円)を控除して計算される分配対象額は17,976,642円（100口当たり2,941円）であり、うち17,966,398円（100口当たり2,940円）を分配金額としております。 | 当計算期間中に計上した受取配当金、配当株式、受取利息及びその他収益金から支払利息を控除した当期配当等収益額（17,250,884円）及び分配準備積立金(10,244円)の合計額から、経費(1,582,769円)を控除して計算される分配対象額は15,678,359円（100口当たり2,565円）であり、うち15,644,211円（100口当たり2,560円）を分配金額としております。 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| 区 分 | 第11期 自 2022年7月11日 至 2023年1月10日 |
|-----------------|--|
| 1. 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 2. 金融商品の内容及びリスク | <p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細をデリバティブ取引に関する注記及び附属明細表に記載しております。</p> <p>これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。</p> <p>信託財産の効率的な運用に資することを目的として、投資信託約款に従ってわが国の金融商品取引所（外国の取引所）における株価指数先物取引を利用しております。</p> |
| 3. 金融商品に係るリスク管理体制 | <p>複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。</p> |
| 4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p> |

金融商品の時価等に関する事項

| 区 分 | 第11期 2023年1月10日現在 |
|--------------------------|--|
| 1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額 | 金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 |
| 2. 金融商品の時価の算定方法 | <p>(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。</p> <p>(3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p> |

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

| 種 類 | 第10期 2022年7月10日現在 | 第11期 2023年1月10日現在 |
|-----|--------------------------|--------------------------|
| | 当計算期間の損益に 含まれた評価差額（円） | 当計算期間の損益に 含まれた評価差額（円） |

| | | |
|----|-------------|------------|
| 株式 | 100,759,983 | 45,714,790 |
| 合計 | 100,759,983 | 45,714,790 |

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

| 種 類 | 第10期 2022年7月10日 現在 | | | | 第11期 2023年1月10日 現在 | | | |
|--------------|-----------------------|-----------|-----------|-------------|-----------------------|-----------|------------|-------------|
| | 契約額等 | | 時価 (円) | 評価損益 (円) | 契約額等 | | 時価 (円) | 評価損益 (円) |
| | (円) | うち 1年超 | | | (円) | うち 1年超 | | |
| 市場取引 | | | | | | | | |
| 株価指数 先物取引 | | | | | | | | |
| 買 建 | 8,723,300 | - | 8,527,500 | 195,800 | 12,251,300 | - | 11,858,000 | 393,300 |
| 合計 | 8,723,300 | - | 8,527,500 | 195,800 | 12,251,300 | - | 11,858,000 | 393,300 |

（注） 1. 時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
4. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

（関連当事者との取引に関する注記）

| |
|---|
| 第11期 自 2022年7月11日 至 2023年1月10日 |
| 市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。 |

（1口当たり情報）

| | 第10期 2022年7月10日現在 | 第11期 2023年1月10日現在 |
|-----------|----------------------|----------------------|
| 1口当たり純資産額 | 2,254.37円 | 2,201.68円 |

| | | |
|---------------|------------|------------|
| (100口当たり純資産額) | (225,437円) | (220,168円) |
|---------------|------------|------------|

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

| 銘柄 | 株式数 | 評価額(円) | | 備考 |
|---------------|-------|----------|------------|----|
| | | 単価 | 金額 | |
| ニッスイ | 700 | 526.00 | 368,200 | |
| マル八二チロ | 100 | 2,433.00 | 243,300 | |
| I N P E X | 2,800 | 1,371.00 | 3,838,800 | |
| 安藤・間 | 700 | 828.00 | 579,600 | |
| 大成建設 | 700 | 4,060.00 | 2,842,000 | |
| 大林組 | 2,100 | 949.00 | 1,992,900 | |
| 清水建設 | 1,600 | 683.00 | 1,092,800 | |
| 三井住友建設 | 200 | 408.00 | 81,600 | |
| 奥村組 | 100 | 2,943.00 | 294,300 | |
| 戸田建設 | 600 | 687.00 | 412,200 | |
| 熊谷組 | 100 | 2,551.00 | 255,100 | |
| 住友林業 | 700 | 2,309.00 | 1,616,300 | |
| 大和ハウス | 4,100 | 3,008.00 | 12,332,800 | |
| 積水ハウス | 2,900 | 2,340.00 | 6,786,000 | |
| 日揮ホールディングス | 700 | 1,634.00 | 1,143,800 | |
| NECネットエスアイ | 300 | 1,669.00 | 500,700 | |
| ニッポン | 100 | 1,588.00 | 158,800 | |
| M I X I | 100 | 2,446.00 | 244,600 | |
| 日本M&Aセンターホールデ | 2,300 | 1,670.00 | 3,841,000 | |
| エス・エム・エス | 500 | 3,230.00 | 1,615,000 | |
| パーソルホールディングス | 1,000 | 2,731.00 | 2,731,000 | |
| 森永製菓 | 200 | 3,735.00 | 747,000 | |
| カルビー | 500 | 2,977.00 | 1,488,500 | |
| 森永乳業 | 100 | 4,725.00 | 472,500 | |
| ヤクルト | 600 | 8,860.00 | 5,316,000 | |
| 伊藤ハム米久HLDGS | 400 | 679.00 | 271,600 | |
| システナ | 1,900 | 398.00 | 756,200 | |
| いちご | 300 | 276.00 | 82,800 | |
| ディップ | 100 | 3,605.00 | 360,500 | |
| ベネフィット・ワン | 700 | 1,927.00 | 1,348,900 | |
| エムスリー | 2,700 | 3,502.00 | 9,455,400 | |
| アウトソーシング | 100 | 939.00 | 93,900 | |

| | | | |
|------------------|-------|-----------|-----------|
| ディー・エヌ・エー | 200 | 1,741.00 | 348,200 |
| インフォマート | 500 | 336.00 | 168,000 |
| アサヒグループホールディング | 800 | 4,057.00 | 3,245,600 |
| 麒麟HD | 4,500 | 1,925.00 | 8,662,500 |
| コカ・コーラボトラーズJHD | 100 | 1,363.00 | 136,300 |
| サントリー食品インター | 500 | 4,335.00 | 2,167,500 |
| 不二製油グループ | 100 | 1,981.00 | 198,100 |
| ローソン | 100 | 4,955.00 | 495,500 |
| サンエー | 100 | 4,045.00 | 404,500 |
| 日本マクドナルドHLDG | 500 | 5,110.00 | 2,555,000 |
| 双日 | 800 | 2,457.00 | 1,965,600 |
| セリア | 300 | 2,957.00 | 887,100 |
| アルフレッサホールディングス | 400 | 1,588.00 | 635,200 |
| 味の素 | 1,900 | 3,866.00 | 7,345,400 |
| キューピー | 200 | 2,334.00 | 466,800 |
| カゴメ | 200 | 2,922.00 | 584,400 |
| ニチレイ | 500 | 2,700.00 | 1,350,000 |
| 東洋水産 | 300 | 4,865.00 | 1,459,500 |
| ヒューリック | 1,000 | 1,029.00 | 1,029,000 |
| ビックカメラ | 300 | 1,239.00 | 371,700 |
| DCMホールディングス | 400 | 1,173.00 | 469,200 |
| MonotaRO | 2,300 | 1,997.00 | 4,593,100 |
| J. フロント リテイリング | 500 | 1,169.00 | 584,500 |
| ZOZO | 800 | 3,185.00 | 2,548,000 |
| 三越伊勢丹HD | 500 | 1,376.00 | 688,000 |
| 東洋紡 | 300 | 989.00 | 296,700 |
| 日清紡ホールディングス | 100 | 959.00 | 95,900 |
| ダイワボウHD | 300 | 1,905.00 | 571,500 |
| 日東紡績 | 100 | 1,916.00 | 191,600 |
| クリエイトSDH | 200 | 3,205.00 | 641,000 |
| TOKAIホールディングス | 400 | 844.00 | 337,600 |
| すかいらーくHD | 300 | 1,537.00 | 461,100 |
| 野村不動産HLDGS | 300 | 2,814.00 | 844,200 |
| オープンハウスグループ | 400 | 4,910.00 | 1,964,000 |
| 東急不動産HD | 800 | 632.00 | 505,600 |
| コスモス薬品 | 100 | 13,380.00 | 1,338,000 |
| 帝人 | 400 | 1,280.00 | 512,000 |
| 旭化成 | 4,900 | 926.80 | 4,541,320 |
| FOOD&LIFE COMPAN | 300 | 2,785.00 | 835,500 |
| ワコールホールディングス | 100 | 2,364.00 | 236,400 |

| | | | |
|----------------|-------|-----------|------------|
| T I S | 1,000 | 3,465.00 | 3,465,000 |
| コーエーテクモHD | 700 | 2,320.00 | 1,624,000 |
| GMOペイメントゲートウェイ | 200 | 11,000.00 | 2,200,000 |
| 王子ホールディングス | 3,600 | 518.00 | 1,864,800 |
| 日本製紙 | 100 | 952.00 | 95,200 |
| ラクス | 200 | 1,627.00 | 325,400 |
| レンゴー | 400 | 888.00 | 355,200 |
| チェンジ | 200 | 2,087.00 | 417,400 |
| マネーフォワード | 100 | 4,260.00 | 426,000 |
| レゾナック・ホールディング | 200 | 2,094.00 | 418,800 |
| 住友化学 | 4,100 | 472.00 | 1,935,200 |
| 日産化学 | 1,100 | 5,820.00 | 6,402,000 |
| デンカ | 300 | 2,998.00 | 899,400 |
| エア・ウォーター | 700 | 1,539.00 | 1,077,300 |
| 協和キリン | 1,200 | 2,875.00 | 3,450,000 |
| 三井化学 | 800 | 3,035.00 | 2,428,000 |
| J S R | 200 | 2,694.00 | 538,800 |
| 東京応化工業 | 100 | 6,180.00 | 618,000 |
| 三菱ケミカルグループ | 3,500 | 687.00 | 2,404,500 |
| ダイセル | 1,100 | 945.00 | 1,039,500 |
| 住友ベークライト | 100 | 3,920.00 | 392,000 |
| 積水化学 | 1,600 | 1,835.00 | 2,936,000 |
| アイカ工業 | 300 | 2,985.00 | 895,500 |
| プレステージ・インター | 700 | 688.00 | 481,600 |
| 野村総合研究所 | 1,900 | 3,135.00 | 5,956,500 |
| メルカリ | 100 | 2,831.00 | 283,100 |
| 日油 | 400 | 5,160.00 | 2,064,000 |
| 花王 | 2,300 | 5,099.00 | 11,727,700 |
| フリー | 100 | 2,928.00 | 292,800 |
| 武田薬品 | 1,300 | 4,026.00 | 5,233,800 |
| アステラス製薬 | 8,400 | 1,901.50 | 15,972,600 |
| 住友ファーマ | 1,000 | 909.00 | 909,000 |
| 日本新薬 | 300 | 7,030.00 | 2,109,000 |
| 中外製薬 | 6,400 | 3,307.00 | 21,164,800 |
| エーザイ | 600 | 8,541.00 | 5,124,600 |
| ロート製薬 | 1,000 | 2,170.00 | 2,170,000 |
| 小野薬品 | 1,900 | 2,857.00 | 5,428,300 |
| 持田製薬 | 100 | 3,190.00 | 319,000 |
| 参天製薬 | 1,300 | 1,017.00 | 1,322,100 |
| HUグループHD | 100 | 2,800.00 | 280,000 |

| | | | |
|-------------------|--------|-----------|------------|
| 栄研化学 | 200 | 1,620.00 | 324,000 |
| J C R ファーマ | 500 | 1,493.00 | 746,500 |
| 第一三共 | 3,800 | 4,030.00 | 15,314,000 |
| 大塚ホールディングス | 1,200 | 4,042.00 | 4,850,400 |
| ペプチドリーム | 100 | 1,983.00 | 198,300 |
| 日本ペイントHOLD | 3,000 | 1,151.00 | 3,453,000 |
| 関西ペイント | 700 | 1,590.00 | 1,113,000 |
| 太陽ホールディングス | 200 | 2,260.00 | 452,000 |
| D I C | 200 | 2,345.00 | 469,000 |
| 東洋インキS Cホールディン | 100 | 1,794.00 | 179,400 |
| オリエンタルランド | 500 | 19,110.00 | 9,555,000 |
| ダスキン | 200 | 2,949.00 | 589,800 |
| ラウンドワン | 500 | 465.00 | 232,500 |
| リゾートトラスト | 300 | 2,289.00 | 686,700 |
| Zホールディングス | 6,000 | 336.80 | 2,020,800 |
| トレンドマイクロ | 700 | 6,020.00 | 4,214,000 |
| 日本オラクル | 400 | 8,300.00 | 3,320,000 |
| ユー・エス・エス | 1,200 | 2,019.00 | 2,422,800 |
| オービックビジネスC | 100 | 4,260.00 | 426,000 |
| 伊藤忠テクノソリュー | 500 | 3,040.00 | 1,520,000 |
| サイバーエージェント | 2,400 | 1,159.00 | 2,781,600 |
| 楽天グループ | 1,000 | 619.00 | 619,000 |
| 大塚商会 | 500 | 4,190.00 | 2,095,000 |
| デジタルガレージ | 200 | 4,155.00 | 831,000 |
| エン・ジャパン | 300 | 2,323.00 | 696,900 |
| サワイグループHD | 100 | 3,900.00 | 390,000 |
| 富士フイルムHLDGS | 1,000 | 6,583.00 | 6,583,000 |
| コニカミノルタ | 500 | 507.00 | 253,500 |
| 資 生 堂 | 400 | 6,690.00 | 2,676,000 |
| ライオン | 1,100 | 1,437.00 | 1,580,700 |
| ファンケル | 400 | 2,665.00 | 1,066,000 |
| コーセー | 100 | 14,140.00 | 1,414,000 |
| ポーラ・オルビスHD | 400 | 1,839.00 | 735,600 |
| ノエビアホールディングス | 100 | 5,440.00 | 544,000 |
| 小林製薬 | 300 | 8,680.00 | 2,604,000 |
| タカラバイオ | 400 | 1,667.00 | 666,800 |
| デクセリアルズ | 300 | 2,591.00 | 777,300 |
| 出光興産 | 500 | 2,963.00 | 1,481,500 |
| E N E O Sホールディングス | 18,100 | 445.30 | 8,059,930 |
| コスモエネルギーHLDGS | 400 | 3,500.00 | 1,400,000 |

| | | | |
|-----------------|--------|-----------|------------|
| ブリヂストン | 1,500 | 4,704.00 | 7,056,000 |
| 住友大阪セメント | 100 | 3,140.00 | 314,000 |
| TOTO | 600 | 4,965.00 | 2,979,000 |
| 日本碍子 | 1,000 | 1,676.00 | 1,676,000 |
| 日本特殊陶業 | 800 | 2,438.00 | 1,950,400 |
| 神戸製鋼所 | 500 | 650.00 | 325,000 |
| JFEホールディングス | 700 | 1,540.00 | 1,078,000 |
| 東京製鐵 | 400 | 1,212.00 | 484,800 |
| 大和工業 | 200 | 4,505.00 | 901,000 |
| 三井金属 | 100 | 3,140.00 | 314,000 |
| 三菱マテリアル | 200 | 2,084.00 | 416,800 |
| 住友鉱山 | 1,400 | 4,865.00 | 6,811,000 |
| 古河電工 | 100 | 2,414.00 | 241,400 |
| フジクラ | 200 | 968.00 | 193,600 |
| 東洋製罐グループHD | 400 | 1,570.00 | 628,000 |
| LIXIL | 600 | 2,033.00 | 1,219,800 |
| 日本発条 | 600 | 840.00 | 504,000 |
| 三浦工業 | 400 | 3,070.00 | 1,228,000 |
| テクノプロ・ホールディング | 800 | 3,415.00 | 2,732,000 |
| リクルートホールディングス | 11,800 | 4,208.00 | 49,654,400 |
| ディスコ | 200 | 38,650.00 | 7,730,000 |
| SMC | 300 | 59,750.00 | 17,925,000 |
| 小松製作所 | 3,500 | 2,851.00 | 9,978,500 |
| クボタ | 3,900 | 1,819.50 | 7,096,050 |
| 荏原製作所 | 500 | 4,780.00 | 2,390,000 |
| ダイキン工業 | 1,000 | 21,330.00 | 21,330,000 |
| 栗田工業 | 400 | 5,470.00 | 2,188,000 |
| 椿本チエイン | 100 | 2,967.00 | 296,700 |
| ダイフク | 400 | 6,440.00 | 2,576,000 |
| CKD | 200 | 1,950.00 | 390,000 |
| ブラザー工業 | 900 | 1,963.00 | 1,766,700 |
| セガサミーホールディングス | 500 | 1,928.00 | 964,000 |
| 日本精工 | 300 | 696.00 | 208,800 |
| ミネベアミツミ | 1,700 | 2,036.00 | 3,461,200 |
| 東芝 | 1,300 | 4,549.00 | 5,913,700 |
| 三菱電機 | 6,700 | 1,276.00 | 8,549,200 |
| 富士電機 | 500 | 5,180.00 | 2,590,000 |
| ジャパニーズエレベーターSHD | 400 | 1,603.00 | 641,200 |
| マブチモーター | 200 | 3,600.00 | 720,000 |
| 日本電産 | 1,900 | 6,928.00 | 13,163,200 |

| | | | |
|--------------|--------|-----------|------------|
| オムロン | 500 | 6,515.00 | 3,257,500 |
| ジーエス・ユアサ コーポ | 200 | 2,126.00 | 425,200 |
| 日本電気 | 600 | 4,500.00 | 2,700,000 |
| 富士通 | 900 | 17,650.00 | 15,885,000 |
| 沖電気 | 100 | 699.00 | 69,900 |
| ルネサスエレクトロニクス | 1,100 | 1,220.50 | 1,342,550 |
| セイコーエプソン | 700 | 1,942.00 | 1,359,400 |
| アンリツ | 400 | 1,251.00 | 500,400 |
| T D K | 1,000 | 4,330.00 | 4,330,000 |
| アルプスアルパイン | 200 | 1,213.00 | 242,600 |
| マクセル | 100 | 1,354.00 | 135,400 |
| 横河電機 | 600 | 2,112.00 | 1,267,200 |
| アズビル | 500 | 3,325.00 | 1,662,500 |
| 日本光電工業 | 400 | 3,150.00 | 1,260,000 |
| 堀場製作所 | 100 | 5,790.00 | 579,000 |
| アドバンテスト | 1,200 | 8,670.00 | 10,404,000 |
| シスメックス | 800 | 7,910.00 | 6,328,000 |
| ウシオ電機 | 100 | 1,638.00 | 163,800 |
| カシオ | 600 | 1,309.00 | 785,400 |
| 浜松ホトニクス | 600 | 6,430.00 | 3,858,000 |
| 新光電気工業 | 200 | 3,750.00 | 750,000 |
| 京セラ | 700 | 6,506.00 | 4,554,200 |
| 太陽誘電 | 600 | 4,200.00 | 2,520,000 |
| 村田製作所 | 3,000 | 6,962.00 | 20,886,000 |
| 日東電工 | 800 | 7,700.00 | 6,160,000 |
| 三菱重工業 | 800 | 4,990.00 | 3,992,000 |
| かんぽ生命保険 | 1,000 | 2,199.00 | 2,199,000 |
| ゆうちょ銀行 | 1,500 | 1,122.00 | 1,683,000 |
| トヨタ自動車 | 32,700 | 1,827.00 | 59,742,900 |
| 三菱自動車工業 | 1,500 | 498.00 | 747,000 |
| アイシン | 400 | 3,525.00 | 1,410,000 |
| マツダ | 600 | 1,007.00 | 604,200 |
| 豊田合成 | 200 | 2,029.00 | 405,800 |
| テイ・エス テック | 200 | 1,504.00 | 300,800 |
| ひろぎんHLDGS | 600 | 652.00 | 391,200 |
| 良品計画 | 900 | 1,409.00 | 1,268,100 |
| メディパルHD | 500 | 1,669.00 | 834,500 |
| ネットワンシステムズ | 400 | 3,285.00 | 1,314,000 |
| スギホールディングス | 200 | 5,680.00 | 1,136,000 |
| 島津製作所 | 1,100 | 3,650.00 | 4,015,000 |

| | | | |
|-----------------|-------|-----------|------------|
| ナカニシ | 400 | 2,546.00 | 1,018,400 |
| マニー | 400 | 1,915.00 | 766,000 |
| ニコン | 400 | 1,176.00 | 470,400 |
| トプコン | 200 | 1,512.00 | 302,400 |
| HOYA | 3,100 | 12,655.00 | 39,230,500 |
| 朝日インテック | 900 | 2,115.00 | 1,903,500 |
| リコー | 500 | 974.00 | 487,000 |
| シチズン時計 | 200 | 576.00 | 115,200 |
| バンダイナムコHLDGS | 1,200 | 8,186.00 | 9,823,200 |
| フジシールインターナショナル | 200 | 1,608.00 | 321,600 |
| タカラトミー | 300 | 1,235.00 | 370,500 |
| 凸版印刷 | 700 | 1,915.00 | 1,340,500 |
| 大日本印刷 | 600 | 2,601.00 | 1,560,600 |
| アシックス | 300 | 2,895.00 | 868,500 |
| エフピコ | 200 | 3,575.00 | 715,000 |
| ヤマハ | 600 | 4,770.00 | 2,862,000 |
| ピジョン | 700 | 2,070.00 | 1,449,000 |
| リンテック | 200 | 2,127.00 | 425,400 |
| 任天堂 | 8,200 | 5,470.00 | 44,854,000 |
| コクヨ | 300 | 1,768.00 | 530,400 |
| ニフコ | 400 | 3,040.00 | 1,216,000 |
| オカムラ | 200 | 1,383.00 | 276,600 |
| 伊藤忠 | 7,200 | 4,019.00 | 28,936,800 |
| 丸紅 | 2,700 | 1,487.50 | 4,016,250 |
| 長瀬産業 | 400 | 1,956.00 | 782,400 |
| 豊田通商 | 1,000 | 4,855.00 | 4,855,000 |
| 兼松 | 400 | 1,466.00 | 586,400 |
| 東京エレクトロン | 1,200 | 42,440.00 | 50,928,000 |
| 住友商事 | 2,200 | 2,147.50 | 4,724,500 |
| BIPROGY | 500 | 3,225.00 | 1,612,500 |
| 三菱商事 | 5,800 | 4,226.00 | 24,510,800 |
| ゴ-ルドウイン | 200 | 9,100.00 | 1,820,000 |
| ユニ・チャ-ム | 1,900 | 4,765.00 | 9,053,500 |
| デサント | 100 | 3,270.00 | 327,000 |
| 東邦ホールディングス | 100 | 2,061.00 | 206,100 |
| サンゲツ | 200 | 2,125.00 | 425,000 |
| サンリオ | 100 | 4,635.00 | 463,500 |
| しまむら | 100 | 12,670.00 | 1,267,000 |
| 高島屋 | 400 | 1,808.00 | 723,200 |
| エイチ・ツー・オーリテイリング | 100 | 1,271.00 | 127,100 |

| | | | |
|---------------|--------|----------|------------|
| 丸井グループ | 800 | 2,131.00 | 1,704,800 |
| クレディセゾン | 400 | 1,664.00 | 665,600 |
| イオン | 600 | 2,701.00 | 1,620,600 |
| イズミ | 100 | 2,853.00 | 285,300 |
| ケーズホールディングス | 600 | 1,110.00 | 666,000 |
| PALTA C | 100 | 4,560.00 | 456,000 |
| SBI新生銀行 | 300 | 2,232.00 | 669,600 |
| あおぞら銀行 | 700 | 2,584.00 | 1,808,800 |
| 三菱UFJフィナンシャルG | 28,900 | 893.30 | 25,816,370 |
| りそなホールディングス | 5,200 | 707.90 | 3,681,080 |
| 三井住友トラストHD | 800 | 4,556.00 | 3,644,800 |
| 三井住友フィナンシャルG | 3,200 | 5,285.00 | 16,912,000 |
| 千葉銀行 | 2,900 | 944.00 | 2,737,600 |
| 群馬銀行 | 600 | 488.00 | 292,800 |
| 七十七銀行 | 200 | 2,095.00 | 419,000 |
| 八十二銀行 | 600 | 540.00 | 324,000 |
| 滋賀銀行 | 100 | 2,602.00 | 260,200 |
| 京都銀行 | 300 | 5,820.00 | 1,746,000 |
| 紀陽銀行 | 100 | 1,506.00 | 150,600 |
| 山陰合同銀行 | 300 | 759.00 | 227,700 |
| みずほフィナンシャルG | 3,400 | 1,886.00 | 6,412,400 |
| 芙蓉総合リース | 100 | 8,410.00 | 841,000 |
| 東京センチュリー | 100 | 4,390.00 | 439,000 |
| SBIホールディングス | 1,400 | 2,559.00 | 3,582,600 |
| 北洋銀行 | 600 | 254.00 | 152,400 |
| オリコ | 100 | 1,133.00 | 113,300 |
| オリックス | 9,200 | 2,097.00 | 19,292,400 |
| 大和証券G本社 | 2,900 | 586.00 | 1,699,400 |
| 野村ホールディングス | 3,300 | 487.40 | 1,608,420 |
| 東海東京HD | 200 | 359.00 | 71,800 |
| SOMPOホールディングス | 3,700 | 5,634.00 | 20,845,800 |
| 日本取引所グループ | 6,200 | 1,831.00 | 11,352,200 |
| マネックスG | 300 | 451.00 | 135,300 |
| MS&AD | 5,100 | 4,131.00 | 21,068,100 |
| 第一生命HLDS | 2,500 | 2,873.50 | 7,183,750 |
| 東京海上HD | 20,800 | 2,738.50 | 56,960,800 |
| T&Dホールディングス | 3,700 | 1,880.00 | 6,956,000 |
| 三井不動産 | 1,800 | 2,354.00 | 4,237,200 |
| 三菱地所 | 4,300 | 1,656.00 | 7,120,800 |
| 平和不動産 | 100 | 3,565.00 | 356,500 |

| | | | |
|----------------|-------|-----------|------------|
| 東京建物 | 300 | 1,562.00 | 468,600 |
| スターツコーポレーション | 200 | 2,485.00 | 497,000 |
| イオンモール | 100 | 1,678.00 | 167,800 |
| カチタス | 600 | 2,896.00 | 1,737,600 |
| 相鉄ホールディングス | 100 | 2,195.00 | 219,500 |
| 東急 | 800 | 1,600.00 | 1,280,000 |
| 東日本旅客鉄道 | 400 | 7,294.00 | 2,917,600 |
| 西日本旅客鉄道 | 200 | 5,485.00 | 1,097,000 |
| 西武ホールディングス | 200 | 1,437.00 | 287,400 |
| 近鉄グループHLDGS | 200 | 4,170.00 | 834,000 |
| 阪急阪神HLDGS | 400 | 3,740.00 | 1,496,000 |
| 南海電鉄 | 100 | 2,772.00 | 277,200 |
| ヤマトホールディングス | 700 | 2,026.00 | 1,418,200 |
| センコーグループHLDGS | 300 | 936.00 | 280,800 |
| 福山通運 | 100 | 2,973.00 | 297,300 |
| 日本郵船 | 1,900 | 3,039.00 | 5,774,100 |
| 商船三井 | 1,800 | 3,210.00 | 5,778,000 |
| 川崎汽船 | 300 | 2,731.00 | 819,300 |
| 九州旅客鉄道 | 200 | 2,831.00 | 566,200 |
| SGホールディングス | 2,200 | 1,765.00 | 3,883,000 |
| NIPPON EXPRESS | 300 | 7,200.00 | 2,160,000 |
| 日本航空 | 200 | 2,643.00 | 528,600 |
| ANAホールディングス | 100 | 2,761.50 | 276,150 |
| 三菱倉庫 | 200 | 2,900.00 | 580,000 |
| 住友倉庫 | 200 | 1,904.00 | 380,800 |
| 上組 | 400 | 2,603.00 | 1,041,200 |
| 日本電信電話 | 5,000 | 3,696.00 | 18,480,000 |
| KDDI | 8,400 | 3,921.00 | 32,936,400 |
| ソフトバンク | 7,800 | 1,465.50 | 11,430,900 |
| 光通信 | 100 | 17,810.00 | 1,781,000 |
| KADOKAWA | 200 | 2,350.00 | 470,000 |
| 中部電力 | 2,700 | 1,274.00 | 3,439,800 |
| 関西電力 | 2,400 | 1,219.00 | 2,925,600 |
| 四国電力 | 300 | 724.00 | 217,200 |
| 東京瓦斯 | 3,100 | 2,460.00 | 7,626,000 |
| 大阪瓦斯 | 2,800 | 2,020.00 | 5,656,000 |
| 東邦瓦斯 | 500 | 2,352.00 | 1,176,000 |
| 東宝 | 400 | 4,810.00 | 1,924,000 |
| NTTデータ | 1,800 | 1,904.00 | 3,427,200 |
| アインホールディングス | 100 | 5,890.00 | 589,000 |

| | | | | |
|--------------|-------|-----------|---------------|--|
| D T S | 200 | 2,912.00 | 582,400 | |
| 乃村工藝社 | 300 | 921.00 | 276,300 | |
| S C S K | 700 | 2,004.00 | 1,402,800 | |
| セコム | 900 | 7,330.00 | 6,597,000 | |
| T K C | 100 | 3,425.00 | 342,500 | |
| 富士ソフト | 100 | 7,480.00 | 748,000 | |
| 船井総研ホールディング | 200 | 2,647.00 | 529,400 | |
| コナミグループ | 400 | 5,890.00 | 2,356,000 | |
| ベネッセホールディングス | 200 | 1,936.00 | 387,200 | |
| トラスコ中山 | 200 | 1,994.00 | 398,800 | |
| ヤマダホールディングス | 2,000 | 461.00 | 922,000 | |
| ニトリホールディングス | 500 | 16,535.00 | 8,267,500 | |
| 吉野家ホールディングス | 100 | 2,280.00 | 228,000 | |
| 王将フードサービス | 100 | 5,920.00 | 592,000 | |
| アークス | 100 | 2,083.00 | 208,300 | |
| ミスミグループ本社 | 1,700 | 2,862.00 | 4,865,400 | |
| ソフトバンクグループ | 1,100 | 5,953.00 | 6,548,300 | |
| スズケン | 200 | 3,385.00 | 677,000 | |
| サンドラッグ | 400 | 3,850.00 | 1,540,000 | |
| 合計 | | | 1,333,941,270 | |

（注） 先物取引に係る差入委託証拠金代用有価証券として以下の有価証券が差し入れられております。

アステラス製薬 3,000株 K D D I 1,500株

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引に関する注記）」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2023年1月31日

| | |
|------------------|----------------|
| 資産総額 | 1,419,362,716円 |
| 負債総額 | 16,122,080円 |
| 純資産総額（ - ） | 1,403,240,636円 |
| 発行済数量 | 611,102口 |
| 1 単位当たり純資産額（ / ） | 2,296.25円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換えの手続き等

該当事項はありません。

(2) 名義登録と収益分配金の支払い

受託会社は、計算期間終了日において氏名または名称、住所および個人番号（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律第2条に規定する個人番号をいいます。）または法人番号（同法同条に規定する法人番号をいいます。）（個人番号もしくは法人番号を有しない者または収益の分配につき租税特別措置法第9条の3の2第1項に規定する支払の取扱者を通じて交付を受ける者にあつては、氏名または名称および住所とします。）が受託会社に登録されている者（以下「名義登録受益者」といいます。）を当該計算期間終了日における収益分配金受領権者とし、収益分配金を当該名義登録受益者に支払います。

(3) 受益者に対する特典

ありません。

(4) 譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

(5) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(6) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(7) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(8) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(9) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、交換請求の受付け、交換有価証券の交付等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1 【委託会社等の概況】

a. 資本金の額

2023年1月末日現在

資本金の額 151億7,427万2,500円

発行可能株式総数 799万9,980株

発行済株式総数 260万8,525株

過去5年間ににおける資本金の額の増減：該当事項はありません。

b. 委託会社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでです。

取締役会は、4名以内の代表取締役を選定し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役、執行役員等から構成される経営会議は、経営全般にかかる基本的事項を審議し、決定します。経営会議は、分科会を設置し、専門的な事項についてはその権限を委ねることができます。

投資運用の意思決定機構

投資運用の意思決定機構の概要は、以下のとおりとなっています。

イ. 商品会議

ファンド設立時に経営会議の分科会である商品会議を開催し、ファンドの新規設定を決定します。

ロ. 商品担当役員

商品担当役員は、ファンド設立の趣旨に沿って、各ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を決定します。

ハ. 運用会議

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ. 運用部長・ファンドマネージャー

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

ホ. リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行なっています。

2023年1月末日現在、委託会社が運用を行なっている投資信託（親投資信託を除きます。）は次のとおりです。

| 基本的性格 | 本数（本） | 純資産額の合計額（百万円） |
|------------|-------|---------------|
| 単位型株式投資信託 | 88 | 306,528 |
| 追加型株式投資信託 | 773 | 21,171,806 |
| 株式投資信託 合計 | 861 | 21,478,334 |
| 単位型公社債投資信託 | 82 | 164,674 |
| 追加型公社債投資信託 | 14 | 1,419,620 |
| 公社債投資信託 合計 | 96 | 1,584,294 |
| 総合計 | 957 | 23,062,628 |

3【委託会社等の経理状況】

1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第63期事業年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表についての監査を、有限責任 あずさ監査法人により受けております。

また、第64期事業年度に係る中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

3．財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(1)【貸借対照表】

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当事業年度 (2022年3月31日) |
|-----------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | 4,860 | 3,168 |
| 有価証券 | 333 | 486 |
| 前払費用 | 237 | 332 |
| 未収委託者報酬 | 13,150 | 13,811 |
| 未収収益 | 49 | 52 |
| 関係会社短期貸付金 | 18,700 | 24,900 |
| その他 | 207 | 45 |
| 流動資産計 | 37,539 | 42,799 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1 | 203 |
| 建物 | 6 | 4 |

| | | |
|-----------|--------|--------|
| 器具備品 | 218 | 198 |
| 無形固定資産 | 1,937 | 1,770 |
| ソフトウェア | 1,882 | 1,738 |
| ソフトウェア仮勘定 | 54 | 31 |
| 投資その他の資産 | 16,121 | 16,617 |
| 投資有価証券 | 10,159 | 10,755 |
| 関係会社株式 | 3,705 | 3,705 |
| 出資金 | 183 | 177 |
| 長期差入保証金 | 1,068 | 1,067 |
| 繰延税金資産 | 973 | 885 |
| その他 | 30 | 26 |
| 固定資産計 | 18,283 | 18,591 |
| 資産合計 | 55,822 | 61,390 |

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当事業年度 (2022年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 預り金 | 68 | 65 |
| 未払金 | 8,405 | 9,856 |
| 未払収益分配金 | 13 | 26 |
| 未払償還金 | 39 | 12 |
| 未払手数料 | 4,734 | 4,917 |
| その他未払金 | 2 | 4,900 |
| 未払費用 | 3,777 | 4,246 |
| 未払法人税等 | 804 | 980 |
| 未払消費税等 | 631 | 1,016 |
| 賞与引当金 | 950 | 866 |
| その他 | 88 | 2 |
| 流動負債計 | 14,725 | 17,033 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 2,452 | 2,399 |
| 役員退職慰労引当金 | 74 | 13 |
| その他 | 3 | 1 |
| 固定負債計 | 2,530 | 2,415 |
| 負債合計 | 17,256 | 19,449 |
| 純資産の部 | | |

| | | |
|--------------|--------|--------|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 15,174 | 15,174 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 11,495 | 11,495 |
| 資本剰余金合計 | 11,495 | 11,495 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 374 | 374 |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 10,574 | 13,925 |
| 利益剰余金合計 | 10,948 | 14,299 |
| 株主資本合計 | 37,618 | 40,969 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 947 | 971 |
| 評価・換算差額等合計 | 947 | 971 |
| 純資産合計 | 38,566 | 41,941 |
| 負債・純資産合計 | 55,822 | 61,390 |

(2) 【損益計算書】

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | 当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) |
|----------|--|--|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 65,487 | 74,402 |
| その他営業収益 | 419 | 545 |
| 営業収益計 | 65,906 | 74,948 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 27,965 | 31,234 |
| 広告宣伝費 | 624 | 650 |
| 調査費 | 8,245 | 9,104 |
| 調査費 | 1,134 | 1,252 |
| 委託調査費 | 7,110 | 7,851 |
| 委託計算費 | 1,501 | 1,729 |
| 営業雑経費 | 1,870 | 2,051 |
| 通信費 | 240 | 189 |
| 印刷費 | 478 | 468 |
| 協会費 | 51 | 46 |
| 諸会費 | 14 | 15 |
| その他営業雑経費 | 1,084 | 1,331 |
| 営業費用計 | 40,207 | 44,768 |

| | | |
|--------------|--------|--------|
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 5,991 | 5,948 |
| 役員報酬 | 351 | 306 |
| 給料・手当 | 4,293 | 4,281 |
| 賞与 | 395 | 493 |
| 賞与引当金繰入額 | 950 | 866 |
| 福利厚生費 | 893 | 867 |
| 交際費 | 32 | 46 |
| 旅費交通費 | 37 | 48 |
| 租税公課 | 472 | 527 |
| 不動産賃借料 | 1,302 | 1,300 |
| 退職給付費用 | 449 | 408 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 28 | 10 |
| 固定資産減価償却費 | 661 | 606 |
| 諸経費 | 1,763 | 1,864 |
| 一般管理費計 | 11,631 | 11,628 |
| 営業利益 | 14,067 | 18,551 |

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | 当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 営業外収益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 578 | 327 |
| 有価証券償還益 | 42 | 40 |
| その他 | 68 | 264 |
| 営業外収益計 | 689 | 631 |
| 営業外費用 | | |
| 投資有価証券売却損 | 69 | 59 |
| 有価証券償還損 | 47 | 0 |
| その他 | 24 | 34 |
| 営業外費用計 | 141 | 93 |
| 経常利益 | 14,616 | 19,089 |
| 特別損失 | | |
| システム刷新関連費用 | 547 | - |
| 関係会社整理損失 | 267 | - |
| 投資有価証券評価損 | 45 | 331 |
| 特別損失計 | 860 | 331 |
| 税引前当期純利益 | 13,756 | 18,757 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4,476 | 5,950 |
| 法人税等調整額 | 109 | 69 |

| | | |
|--------|-------|--------|
| 法人税等合計 | 4,366 | 6,019 |
| 当期純利益 | 9,389 | 12,738 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | 株主資本 合計 |
|-------------------------|--------|--------|-------|--------------|-------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 | |
| | | 資本準備金 | 利益準備金 | その他利益 剰余金 | | |
| 当期首残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 11,749 | 12,123 | 38,793 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | - | △ 10,564 | △ 10,564 | △ 10,564 |
| 当期純利益 | - | - | - | 9,389 | 9,389 | 9,389 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | - | - | - | - | - | - |
| 当期変動額合計 | - | - | - | △ 1,175 | △ 1,175 | △ 1,175 |
| 当期末残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 10,574 | 10,948 | 37,618 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|----------------------|----------------|----------|
| | その他有価 証券評価 差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | △ 363 | △ 363 | 38,430 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | △ 10,564 |
| 当期純利益 | - | - | 9,389 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | 1,311 | 1,311 | 1,311 |
| 当期変動額合計 | 1,311 | 1,311 | 136 |
| 当期末残高 | 947 | 947 | 38,566 |

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

| | 株主資本 | | | | | |
|-------------------------|--------|--------|-------|-----------------------------|-------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 株主資本 合計 |
| | | 資本準備金 | 利益準備金 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余金 合計 | |
| 当期首残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 10,574 | 10,948 | 37,618 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | - | △ 9,388 | △ 9,388 | △ 9,388 |
| 当期純利益 | - | - | - | 12,738 | 12,738 | 12,738 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | - | - | - | - | - | - |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 3,350 | 3,350 | 3,350 |
| 当期末残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 13,925 | 14,299 | 40,969 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|----------------------|----------------|---------|
| | その他有価 証券評価 差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 947 | 947 | 38,566 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | △ 9,388 |
| 当期純利益 | - | - | 12,738 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 24 | 24 | 24 |
| 当期変動額合計 | 24 | 24 | 3,374 |
| 当期末残高 | 971 | 971 | 41,941 |

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（2）その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 10～18年

器具備品 4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与及び上席参事についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社は証券投資信託の信託約款に基づき、証券投資信託の運用について履行義務を負っております。委託者報酬は、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当社が日々サービスを提供する時に当該履行義務が充足されるため、証券投資信託の運用期間にわたり収益を認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

(1) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(2) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、翌事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）を適用する予定であります。

(重要な会計上の見積り)

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる当事業年度の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

（未適用の会計基準等）

- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）

(1) 概要

投資信託の時価の算定及び注記に関する取扱い並びに貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資の時価の注記に関する取扱いが定められました。

(2) 適用予定日

2023年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」の適用による財務諸表に与える影響については、現時点で評価中であります。

（貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当事業年度 (2022年3月31日) |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 建物 | 35百万円 | 37百万円 |
| 器具備品 | 259百万円 | 283百万円 |

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当事業年度 (2022年3月31日) |
|-----|-----------------------|-----------------------|
| 未払金 | 3,473百万円 | 4,694百万円 |

3 保証債務

前事業年度（2021年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,727百万円に対して保証を行っております。

当事業年度（2022年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,900百万円に対して保証を行っております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

| | 当事業年度期首 株式数 | 当事業年度 増加株式数 | 当事業年度 減少株式数 | 当事業年度末 株式数 |
|-------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 2,608 | - | - | 2,608 |
| 合計 | 2,608 | - | - | 2,608 |

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 剰余金の配当の 総額（百万円） | 1株当たり 配当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|--------------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2020年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 10,564 | 4,050 | 2020年 3月31日 | 2020年 6月24日 |

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2021年6月22日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

| | |
|-----------|------------|
| 剰余金の配当の総額 | 9,388百万円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 3,599円 |
| 基準日 | 2021年3月31日 |
| 効力発生日 | 2021年6月23日 |

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

| | 当事業年度期首 株式数 | 当事業年度 増加株式数 | 当事業年度 減少株式数 | 当事業年度末 株式数 |
|-------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 2,608 | - | - | 2,608 |
| 合計 | 2,608 | - | - | 2,608 |

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 剰余金の配当の総額（百万円） | 1株当たり配当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-------------|----------------|----------------|
| 2021年6月22日 定時株主総会 | 普通株式 | 9,388 | 3,599 | 2021年 3月31日 | 2021年 6月23日 |

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

| | |
|-----------|------------|
| 剰余金の配当の総額 | 12,737百万円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 4,883円 |
| 基準日 | 2022年3月31日 |
| 効力発生日 | 2022年6月24日 |

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。株式は上場株式、非上場株式、子会社株式並びに関連会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式、子会社株式及び関連会社株式は発行体の信用リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、親会社に対して貸付を行っているものであります。

未払手数料は証券投資信託の販売に係る代行手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

市場リスクの管理

（ ）為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

（ ）価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

2. 金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

貸借対照表計上額、時価並びにレベルごとの内訳等については、次のとおりであります。なお、2019年7月4日公表の企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（以下、「2019年適用指針」という。）第26項に従い経過措置を適用した有価証券、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。

また、金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

前事業年度（2021年3月31日）

（1）時価をもって貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

（単位：百万円）

| | 貸借対照表計上額 | | | |
|-----------|----------|------|------|----|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券（1） | 85 | - | - | 85 |
| 資産合計 | 85 | - | - | 85 |

（1）2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用し、有価証券333百万円、投資有価証券9,406百万円は上記の表に含めておりません。

（2）時価をもって貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、コマーシャル・ペーパー、未払金及び未払費用は、短期間（1年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当事業年度（2022年3月31日）

（1）時価をもって貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

（単位：百万円）

| | 貸借対照表計上額 | | | |
|-----------|----------|------|------|----|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券（1） | 66 | - | - | 66 |
| 資産合計 | 66 | - | - | 66 |

（1）2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用し、有価証券486百万円、投資有価証券10,022百万円は上記の表に含めておりません。

（2）時価をもって貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、関係会社短期貸付金、未払金及び未払費用は、短期間（１年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注１）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

株式は活発な市場における無調整の相場価格を利用できることから、その時価をレベル１に分類しております。なお、2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用している有価証券は、公表されている基準価額によっていることからレベルを付しておりません。保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

（注２）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中の投資有価証券には含めておりません。

（単位：百万円）

| 区分 | 前事業年度 | 当事業年度 |
|--------|-------|-------|
| 非上場株式等 | 666 | 666 |
| 子会社株式 | 1,677 | 1,677 |
| 関連会社株式 | 2,027 | 2,027 |

（有価証券関係）

１．子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（2021年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 1,677百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度（2022年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 1,677百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

２．その他有価証券

前事業年度（2021年3月31日）

| | 貸借対照表計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------|-------------------|---------------|-------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| （１）株式 | 85 | 55 | 30 |
| （２）その他 | 7,179 | 5,697 | 1,481 |
| 小計 | 7,265 | 5,752 | 1,512 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| その他 | 2,561 | 2,721 | 160 |
| 小計 | 2,561 | 2,721 | 160 |
| 合計 | 9,826 | 8,474 | 1,352 |

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 666百万円)については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2022年3月31日)

| | 貸借対照表計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------|-------------------|---------------|-------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| (1)株式 | 66 | 55 | 11 |
| (2)その他 | 6,755 | 4,917 | 1,838 |
| 小計 | 6,822 | 4,972 | 1,850 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| その他 | 3,753 | 4,208 | 454 |
| 小計 | 3,753 | 4,208 | 454 |
| 合計 | 10,575 | 9,180 | 1,395 |

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 666百万円)については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

| 種類 | 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|------------------|--------------|------------------|------------------|
| (1)株式 | - | - | - |
| (2)その他 証券投資信託 | 5,353 | 578 | 69 |
| 合計 | 5,353 | 578 | 69 |

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

| 種類 | 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|------------------|--------------|------------------|------------------|
| (1)株式 | - | - | - |
| (2)その他 証券投資信託 | 1,719 | 327 | 59 |
| 合計 | 1,719 | 327 | 59 |

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、関係会社株式について267百万円、証券投資信託について45百万円の減損処理を行っております。

当事業年度において、証券投資信託について331百万円の減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付制度(退職一時金制度であります)及び確定拠出制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|-------------|-------------------------------|-----|-------------------------------|-----|
| | (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | | (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) | |
| 退職給付債務の期首残高 | 2,574 | 百万円 | 2,452 | 百万円 |
| 勤務費用 | 155 | | 152 | |
| 退職給付の支払額 | 378 | | 303 | |
| その他 | 101 | | 98 | |
| 退職給付債務の期末残高 | 2,452 | | 2,399 | |

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|---------------------|-------------------------------|-----|-------------------------------|-----|
| | (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | | (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) | |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 2,452 | 百万円 | 2,399 | 百万円 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 2,452 | | 2,399 | |
| 退職給付引当金 | 2,452 | | 2,399 | |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 2,452 | | 2,399 | |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|-----------------|-------------------------------|-----|-------------------------------|-----|
| | (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | | (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) | |
| 勤務費用 | 155 | 百万円 | 152 | 百万円 |
| その他 | 108 | | 67 | |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 263 | | 219 | |

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度186百万円、当事業年度189百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(単位：百万円)

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|---------|--------------|--|--------------|--|
| | (2021年3月31日) | | (2022年3月31日) | |
| 繰延税金資産 | | | | |
| 退職給付引当金 | 750 | | 734 | |
| 賞与引当金 | 243 | | 227 | |

| | | |
|--------------|-------|-------|
| 未払事業税 | 170 | 213 |
| 投資有価証券評価損 | 128 | 144 |
| システム関連費用 | 155 | 111 |
| 出資金評価損 | 94 | 94 |
| その他 | 298 | 437 |
| 繰延税金資産小計 | 1,841 | 1,963 |
| 評価性引当額 | 254 | 356 |
| 繰延税金資産合計 | 1,586 | 1,607 |
| 繰延税金負債 | | |
| 連結法人間取引（譲渡益） | 159 | 159 |
| その他有価証券評価差額金 | 453 | 562 |
| 繰延税金負債合計 | 612 | 722 |
| 繰延税金資産の純額 | 973 | 885 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度（2021年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当事業年度（2022年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（収益認識関係）

（1）顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、証券投資信託に関する運用その他の業務を行っております。営業収益の内訳は、証券投資信託に関する運用に係る業務が74,402百万円、その他545百万円であります。

（2）収益を理解するための基礎となる情報

（重要な会計方針）の4.収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

（3）顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金または出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有 (被所有)割合 (%) | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|-----|-------------|---------|--------------------|---------|---------------------------|--------|--------|-------------------|---------------|-----------|---------------|
| | | | | | | 役員の兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 親会社 | ㈱大和証券グループ本社 | 東京都千代田区 | 247,397 | 証券持株会社業 | 被所有 100.0 | あり | 経営管理 | 資金の貸付 利息の受取(注) | 19,300 0 | 関係会社短期貸付金 | 18,700 - |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸付利息については市場金利を勘案して合理的に決定し、返済期間は1年以内としております。なお、担保は受け入れておりません。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金または出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有 (被所有)割合 (%) | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|-----|---------------|---------|--------------------|---------|---------------------------|--------|--------|-----------------------|-----------------|---------------------------|-----------------|
| | | | | | | 役員の兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| 親会社 | (株)大和証券グループ本社 | 東京都千代田区 | 247,397 | 証券持株会社業 | 被所有 100.0 | あり | 経営管理 | 資金の貸付 利息の受取(注) | 19,000 0 | 関係会社短期貸付金 受取利息関係会社 | 24,900 0 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸付利息については市場金利を勘案して合理的に決定し、返済期間は1年以内としております。なお、担保は受け入れておりません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合 (%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|-----|--|-----------|-------------------|---------|-----------------------|-----------|-------------|---------------|----|---------------|
| 子会社 | Daiwa Asset Management (Singapore)Ltd. | Singapore | 133 | 金融商品取引業 | 所有 直接100.0 | 経営管理 | 債務保証 (注) | 1,727 | - | - |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行、及びMASへの全ての損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定めるとおりに決定しております。

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合 (%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|-----|--|-----------|-------------------|---------|-----------------------|-----------|-------------|---------------|----|---------------|
| 子会社 | Daiwa Asset Management (Singapore)Ltd. | Singapore | 133 | 金融商品取引業 | 所有 直接100.0 | 経営管理 | 債務保証 (注) | 1,900 | - | - |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行、及びMASへの全ての損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定めるとおりに決定しております。

(ウ) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

| 属性 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合 (%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|-------------|-------------------|---------|-------------------|---------|-----------------------|--------------------------------|------------------|---------------|---------|---------------|
| 同一の親会社をもつ会社 | 大和証券(株) | 東京都千代田区 | 100,000 | 金融商品取引業 | - | 証券投資信託受益証券の募集販売 本社ビルの管理 | 証券投資信託の代行手数料(注2) | 14,917 | 未払手数料 | 3,321 |
| | | | | | | | 不動産の賃借料(注4) | 527 | 長期差入保証金 | 1,054 |
| 同一の親会社をもつ会社 | 株大和総研ビジネス・イノベーション | 東京都江東区 | 3,000 | 情報サービス業 | - | ソフトウェアの開発 | ソフトウェアの購入(注3) | 883 | 未払費用 | 179 |
| 同一の親会社をもつ会社 | 大和プロパティ(株) | 東京都中央区 | 100 | 不動産管理業 | - | 本社ビルの管理 | 不動産の賃借料(注4) | 527 | - | - |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

| 属性 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合 (%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|----|--------|-----|-------------------|-------|-----------------------|-----------|-------|---------------|----|---------------|
|----|--------|-----|-------------------|-------|-----------------------|-----------|-------|---------------|----|---------------|

| | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---|----------------------------|---------------------------------|-----------------|------------------|----------------|
| 同一の親会社をもつ会社 | 大和証券(株) | 東京都千代田区 | 100,000 | 金融商品取引業 | - | 証券投資信託受益証券の募集販売 本社ビルの管理 | 証券投資信託の代行手数料(注2) 不動産の賃借料(注3) | 15,348 1,062 | 未払手数料 長期差入保証金 | 3,028 1,054 |
| 同一の親会社をもつ会社 | (株)大和総研 | 東京都江東区 | 3,898 | 情報サービス業 | - | ソフトウェアの開発・保守 | ソフトウェアの購入・保守(注4) | 1,065 | 未払費用 | 91 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し交渉の上、決定しております。

(注4) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社大和証券グループ本社(東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

| 前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | | 当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) | |
|--|------------|--|------------|
| 1株当たり純資産額 | 14,784.79円 | 1株当たり純資産額 | 16,078.50円 |
| 1株当たり当期純利益 | 3,599.54円 | 1株当たり当期純利益 | 4,883.43円 |

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

| | 前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) | 当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 当期純利益(百万円) | 9,389 | 12,738 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 2,608,525 | 2,608,525 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位:百万円)

| | | 当中間会計期間 (2022年9月30日) |
|------------|---|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | | 3,876 |
| 有価証券 | | 498 |
| 未収委託者報酬 | | 12,633 |
| 関係会社短期貸付金 | | 16,600 |
| その他 | | 557 |
| 流動資産合計 | | 34,165 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1 | 196 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | | 1,443 |
| その他 | | 141 |
| 無形固定資産合計 | | 1,584 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | | 7,533 |
| 関係会社株式 | | 3,482 |
| 繰延税金資産 | | 887 |
| その他 | | 1,267 |
| 投資その他の資産合計 | | 13,170 |
| 固定資産合計 | | 14,950 |
| 資産合計 | | 49,116 |

(単位:百万円)

| | | 当中間会計期間 (2022年9月30日) |
|------|--|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | | 5,646 |

| | |
|--------------|--------|
| 未払費用 | 4,193 |
| 未払法人税等 | 1,623 |
| 賞与引当金 | 486 |
| その他 | 2 655 |
| 流動負債合計 | 12,605 |
| 固定負債 | |
| 退職給付引当金 | 2,344 |
| 役員退職慰労引当金 | 33 |
| その他 | 1 |
| 固定負債合計 | 2,379 |
| 負債合計 | 14,984 |
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | |
| 資本金 | 15,174 |
| 資本剰余金 | |
| 資本準備金 | 11,495 |
| 資本剰余金合計 | 11,495 |
| 利益剰余金 | |
| 利益準備金 | 374 |
| その他利益剰余金 | |
| 繰越利益剰余金 | 6,692 |
| 利益剰余金合計 | 7,067 |
| 株主資本合計 | 33,737 |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | 394 |
| 評価・換算差額等合計 | 394 |
| 純資産合計 | 34,131 |
| 負債・純資産合計 | 49,116 |

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

| | |
|---------|---------------|
| | 当中間会計期間 |
| | (自 2022年4月1日 |
| | 至 2022年9月30日) |
| 営業収益 | |
| 委託者報酬 | 35,926 |
| その他営業収益 | 281 |

| | | |
|--------------|---|--------|
| 営業収益合計 | | 36,208 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | | 15,088 |
| その他営業費用 | | 6,970 |
| 営業費用合計 | | 22,059 |
| 一般管理費 | 1 | 5,766 |
| 営業利益 | | 8,382 |
| 営業外収益 | 2 | 579 |
| 営業外費用 | 3 | 274 |
| 経常利益 | | 8,686 |
| 特別利益 | | - |
| 特別損失 | 4 | 460 |
| 税引前中間純利益 | | 8,226 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 2,472 |
| 法人税等調整額 | | 248 |
| 中間純利益 | | 5,505 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | |
|-------------------------------|--------|--------|-------|-----------------------------|-------------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | | | 株主資本合計 |
| | | 資本準備金 | 利益準備金 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余金 合計 | |
| 当期首残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 13,925 | 14,299 | 40,969 |
| 当中間期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | - | 12,737 | 12,737 | 12,737 |
| 中間純利益 | - | - | - | 5,505 | 5,505 | 5,505 |
| 株主資本以外の 項目の当中間期 変動額（純額） | - | - | - | - | - | - |
| 当中間期変動額合計 | - | - | - | 7,232 | 7,232 | 7,232 |
| 当中間期末残高 | 15,174 | 11,495 | 374 | 6,692 | 7,067 | 33,737 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-----------------------|--------------|------------|--------|
| | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | 971 | 971 | 41,941 |
| 当中間期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | - | - | 12,737 |
| 中間純利益 | - | - | 5,505 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額） | 576 | 576 | 576 |
| 当中間期変動額合計 | 576 | 576 | 7,809 |
| 当中間期末残高 | 394 | 394 | 34,131 |

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（2）その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

| | |
|------|--------|
| 建物 | 10～18年 |
| 器具備品 | 4～20年 |

（2）無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3．引当金の計上基準

（1）賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与及び上席参事についても、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

当社は証券投資信託の信託約款に基づき、証券投資信託の運用について履行義務を負っております。委託者報酬は、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当社が日々サービスを提供する時に当該履行義務が充足されるため、証券投資信託の運用期間にわたり収益を認識しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。この変更による当中間財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社は、当中間会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(中間貸借対照表関係)

1 減価償却累計額

| | 当中間会計期間 (2022年9月30日現在) |
|--------|---------------------------|
| 有形固定資産 | 326百万円 |

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

3 保証債務

当中間会計期間（2022年9月30日現在）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務2,122百万円に対して保証を行っております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

| | 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|--------|--|
| 有形固定資産 | 11百万円 |
| 無形固定資産 | 302百万円 |

2 営業外収益の主要項目

| | 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|-----------|--|
| 投資有価証券売却益 | 268百万円 |
| 有価証券償還益 | 149百万円 |
| 為替差益 | 114百万円 |

3 営業外費用の主要項目

| | 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|-----------|--|
| 投資有価証券売却損 | 244百万円 |

4 特別損失の項目

| | 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|-----------|--|
| 投資有価証券評価損 | 237百万円 |
| 関係会社整理損失 | 222百万円 |

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

| | 当事業年度期首 株式数 | 当中間会計期間 増加株式数 | 当中間会計期間 減少株式数 | 当中間会計期間末 株式数 |
|-------|----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 2,608 | - | - | 2,608 |
| 合計 | 2,608 | - | - | 2,608 |

2. 配当に関する事項

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|---------------------|------------|------------|
| 2022年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 12,737 | 4,883 | 2022年3月31日 | 2022年6月24日 |

(金融商品関係)

当中間会計期間(2022年9月30日)

金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額並びにレベルごとの内訳等については、次のとおりであります。また、金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって中間貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

| | 中間貸借対照表計上額 | | | |
|--------------|------------|-------|------|-------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 有価証券及び投資有価証券 | 57 | 7,306 | - | 7,364 |
| 資産合計 | 57 | 7,306 | - | 7,364 |

(2) 時価をもって中間貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、短期貸付金、未払金及び未払費用は、短期間（1年以内）で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注1）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

株式は活発な市場における無調整の相場価格を利用できることから、その時価をレベル1に分類しております。当社が保有している証券投資信託は基準価額を用いて評価しており、当該基準価額は活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2に分類しております。保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

（注2）市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中の投資有価証券には含めておりません。

（単位：百万円）

| 区分 | 当中間会計期間 |
|--------|---------|
| 非上場株式等 | 666 |
| 子会社株式 | 1,454 |
| 関連会社株式 | 2,027 |

（有価証券関係）

当中間会計期間（2022年9月30日）

1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式（中間貸借対照表計上額 1,454百万円）及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 2,027百万円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

2. その他有価証券

| | 中間貸借対照表 計上額（百万円） | 取得原価 （百万円） | 差額 （百万円） |
|------------------------|---------------------|---------------|-------------|
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| （1）株式 | 57 | 55 | 2 |
| （2）その他 | 4,614 | 3,570 | 1,043 |
| 小計 | 4,671 | 3,625 | 1,046 |
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| その他 | 2,692 | 3,171 | 478 |
| 小計 | 2,692 | 3,171 | 478 |
| 合計 | 7,364 | 6,797 | 567 |

（注）非上場株式（中間貸借対照表計上額 666百万円）については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（収益認識関係）

（１）顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、証券投資信託に関する運用その他の業務を行っております。営業収益の内訳は、証券投資信託に関する運用に係る業務が35,926百万円、その他281百万円であります。

（２）収益を理解するための基礎となる情報

（重要な会計方針）の４．収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

（３）顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1.サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

（１）営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | |
|--|------------|
| 1株当たり純資産額 | 13,084.78円 |
| 1株当たり中間純利益 | 2,110.46円 |

(注1) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下の通りであります。

| 当中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | |
|--|-----------|
| 中間純利益(百万円) | 5,505 |
| 普通株式に係る中間純利益(百万円) | 5,505 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 2,608,525 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行なうこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

a. 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

2022年4月1日付で、定款について次の変更を致しました。

- ・ 監査役の人数の変更（4名以内から5名以内に変更）

b. 訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実

訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

| | 名 称 | 資本金の額 (2022年03月末日現在) | 事業の内容 | 備考 |
|---------|---------------------------------|-------------------------|-------|----|
| 受託会社 | みずほ信託銀行株式会社 | 247,369百万円 | (注6) | |
| 再信託受託会社 | 株式会社日本カスト ディ銀行 | 51,000百万円 | (注6) | |
| 販売会社 | 大和証券株式会社 | 100,000百万円 | (注1) | |
| | エービーエヌ・アム ロ・クリアリング証券 株式会社 | 5,505百万円 | (注1) | |
| | ゴールドマン・サック ス証券株式会社 | 83,616百万円 | (注1) | |
| | 野村證券株式会社 | 10,000百万円 | (注1) | |
| | パークレイズ証券株式 会社 | 38,945百万円 | (注1) | |
| | BNPパリバ証券株式会 社 | 102,025百万円 | (注1) | |
| | みずほ証券株式会社 | 125,167百万円 | (注1) | |
| | 三菱UFJモルガン・ スタンレー証券株式会 社 | 40,500百万円 | (注1) | |

(注1) 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

(注2) 主として中小企業向け融資業を営んでいます。

(注3) 銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

(注4) 全国の信用金庫の中央金融機関として、信用金庫の余裕資金の効率運用と信用金庫間の資金の需給調整、信用金庫業界の信用力の維持向上および業務機能の補完を図っています。

(注5) 協同組合による金融事業に関する法律に基づき金融事業を営んでいます。

(注6) 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(注7) 信用金庫法に基づく金融業を営んでいます。

(注8) 保険業法に基づき損害保険業を営んでいます。

(注9) 保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。

(注10) 全国の農業協同組合、漁業協同組合、森林組合などの協同組織の全国金融機関として、余裕資金の効率運用と資金の需給調整、当該協同組織の信用力の維持向上及び業務機能の補完を図っています。

(注11) 労働金庫連合会は、労働金庫法に基づき設立された労働金庫の系統中央金融機関です。

(注12) 農業協同組合法に基づき信用事業等を営んでいます。

2【関係業務の概要】

受託会社は、信託契約の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行いません。

再信託受託会社は、受託会社と再信託契約を締結し、信託事務の一部(信託財産の管理等)を行いません。

販売会社は、受益権の募集の取扱い、受益権とその信託財産に属する株式との交換に関する事務等を行いません。

3【資本関係】

該当事項はありません。

第3【その他】

(1) 目論見書の表紙から本文の前までの記載等について

- ・ 金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書である旨を記載することがあります。
 - ・ 目論見書の別称として「投資信託説明書(交付目論見書)」または「投資信託説明書(請求目論見書)」という名称を用いることがあります。
 - ・ 委託会社等の情報、受託会社に関する情報を記載することがあります。
 - ・ 詳細な情報の入手方法として、以下の事項を記載することがあります。
 - 委託会社のホームページアドレス、電話番号及び受付時間等
 - 請求目論見書の入手方法及び投資信託約款が請求目論見書に掲載されている旨
 - ・ 使用開始日を記載することがあります。
 - ・ 届出の効力に関する事項について、次に掲げるいずれかの内容を記載することがあります。
 - 届出をした日及び当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
 - 届出をした日、届出が効力を生じている旨及び効力発生日
 - ・ 次の事項を記載することがあります。
 - 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨及び当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
 - 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載
 - ・ 委託会社、当ファンドのロゴ・マーク等を記載することがあります。
 - ・ ファンドの形態等を記載することがあります。
 - ・ 図案を採用することがあります。
 - ・ ファンドの管理番号等を記載することがあります。
 - ・ 委託会社のインターネットホームページのアドレスに加え、他のインターネットのアドレス(当該アドレスをコード化した図形等も含みます。)を掲載することがあります。
 - ・ UD FONT マークおよび説明文を記載することがあります。
- (2) 当ファンドは、評価機関等の評価を取得、使用する場合があります。
- (3) 交付目論見書に最新の運用実績を記載することがあります。
- (4) 請求目論見書に当ファンドの投資信託約款の全文を記載します。

独立監査人の監査報告書

2022年5月23日

大和アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

| | | | |
|----------|-------|----|----|
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 間瀬 | 友未 |
| 業務執行社員 | | | |
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 深井 | 康治 |
| 業務執行社員 | | | |

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和アセットマネジメント株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和アセットマネジメント株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年2月24日

大和アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹内 知明指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮田 世紀**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）の2022年7月11日から2023年1月10日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ上場投信 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）の2023年1月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、大和アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、経営者に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

大和アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年11月28日

大和アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

| | | |
|----------|-------|-------|
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 間瀬 友未 |
| 業務執行社員 | | |
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 深井 康治 |
| 業務執行社員 | | |

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第64期事業年度の中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和アセットマネジメント株式会社の2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。